

---

**只今妄想実現中！**

ぴろてい～@

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

只今妄想実現中！

### 【Nコード】

N 6 2 3 4 Y

### 【作者名】

ぴろていゝ@

### 【あらすじ】

どこにでも居てそうなサラリーマン。

小西裕之38歳。

神様との取引で能力を得る事に成功。

この能力で異世界を謳歌する。・・・予定。

ハーレム化になるかはまだ考え中です。

戦闘はありますが、なるべくグロくはしないつもりです。

## はじめに

今までは他の作者様の小説を読むだけだったのですが、自分でも執筆してみたくなり

チャレンジしてみようと思い執筆に至ります。

更新速度は遅いです。（妄想しなければならぬので・・・）

誤字・脱字など有れば御指摘を宜しくお願い致します。

この小説に登場する武器・魔法等などは他の作者様とカブる点や違う点も出てくるかとは

思いますが、鋭い突っ込みは作者のガラス細工のハートが持ちませぬのでお手柔らかに

お願い致します。

その他励ましも宜しくお願い致します。

## いつもの日常？

朝6時いつもの様に目覚ましが鳴り響く。

その音で目が覚める。

毎日毎日同じ時間に起きて通勤する。

顔を洗い、朝食を食べ、歯を磨き、着替えて、駅まで自転車で行く。

うむ、毎度の事ながらロボットみたいやわ。

規則正しい生活は、健全な肉体・健全な精神を形成するとか聞いた事有るけど・・・。

ほんまかな・・・？

そんな事を思いつつリビングに行くと、嫁が朝食の準備をしていた。

まだ子供達は起きてない。

子供は2人で4歳に2歳。

共に女の子である。

朝は子供の顔を見る事はない。

子供が起きる前に通勤やしね。

ばーっとテレビを見ながらパンを食べる。

そろそろ歯磨いて、着替えるか・・・。

通勤には1時間かかる。

結構電車通勤って暇なんやわ。

そこで、iPodを買ってみた。

最初は御機嫌で音楽を聴いてたけど、それも1ヶ月で飽きてきた。

次は、iPodを聞きながら本を見る事にした。

これがなかなかいい感じや。

まあ電車で読むにはファンタジー小説は他人の目が痛いな・・・。

でも、関係ないね！（柴田恭平風）

高校時代から、かの有名なロードス 戦記を読みTRPGにはまり  
マジックザ

ギャザリング（でも、これはあんまはまらなかった）をしたり、プ  
チオタク道を

闊歩してたと思うわ。

でも、ファンタジーオタクって訳じゃないで。

サバゲーしたり、シューティングゲーム（某ゾンビゲー）、趣味で  
抜刀（居合じゃないで）

習ったりしてるしな。

もしかして妄想を普通にしてて、ナイトビジョン買ったり、非常食・  
水の備蓄は

もちろんの事防刃グローブ（手袋の事やで）買ったりしてた。

何の妄想かって？

そりゃ世の中突然にリビングデットになったら生き残る為にやん。

嫁には白い目で見られながら徐々に揃えてん。

さすがにおこずかい制やから、高額商品は買えませーん。

おっと、こんな説明してる間に降りる駅に着いたやん。

まあ誰に説明してるねんって感じやけどな……。

自分のデスクの上に有る書類を処理しながら考える……。

早く昼休憩にならへんかな……。

って今来たばかりやん！って突っ込みありがとう。

基本ダメ社員です。はい。

でも不思議な事に役職付いてますんやわ……。

課長やねんな……。不思議やる？

俺も不思議やわ。

上司の目はビー玉なんとちゃうやろか？なんて思ったり、思わなかったり。

って思ってるやろって突っ込みありがとう。

思ってます。

なんか不思議な事って世の中いっぱい有るねんな。

我社の7不思議の1つやと俺は思う。

他の6つは何かって？

聞きたい？

しゃーないな。

2つ目は今年42歳の経理のオールドミスが結婚。

一説によると処女だったらしい。

3つ目は絶望的な禿げ社長に毛が生えた。

これはリゲンのおかげらしい。

4つ目は・・・まだ聞きたい？

まあこんなしょうもない事の7不思議。

おっと、客からメールや。

ふむふむ、今から来い？

さばれるし、行きますか。

俺「部長、工業の部長様からメールが入り、至急打ち合わせしたい事があり来て

ほしいとの事ですんで、車で今から向かいます。」

部長「おお、ほな部長によろしく言うといて。」

しめしめ、これで大手を振ってさばれるわ。

さっさと用事済ませて昼寝しよ。

工業は隣の県に有るから、高速使わなあかんけど帰りのSAで昼寝できるねん。



## いつもの日常？

無事客との綿密な打ち合わせも終わり・・・

はい、嘘です。

ほぼ適当に聞いてました。

って途中の展開はいきなり飛ばしたけどいいやんな？

さてさて、もう昼やし何食べよかな？

男は黙ってうどん！

男は関係ないって？

関係ないね（柴田恭平風・・・もう飽きた？）

ただのうどん好きです。

いつもこの客の帰り道にあるうどん屋に寄って食べるんがパターンその1。

ちなみに、その2は無いで。

うどんを食べながら外の景色見てると、変なじいさんとちょっと残念な感じのイケメン

兄ちゃんが俺の車の周りで話してるのが見えた。

車上荒し？

最近は年寄りもやりよるんやな・・・。

年金だけじゃ食えんのやろな・・・。

かわいそうやけど、何かしたら即通報〓御用になってもらお。

でも・・・。

何であの2人の周辺だけでもややした風景になってるんやろ。

気合入れた時のケンシロウやん。

あた！とか神谷あきらが言いそうな感じ。

あ・・・あのじいさん俺の車覗いて何かやっとする！

俺「おばちゃんお金ここ置いとくで！」

俺は勢い良く飛び出て2人の所に走った。

俺「おいおい！じいさん！いくら年金少ないからって車上荒しはあかんやろ！」

車上荒しって決めつけてます。

車上荒し！「おっ。お主の物か。すまんの、珍しくて覗いてただけ

じゃわ。」

俺「何が珍しいねん・・・ほんま・・・。まあ一応何かされてないか確認するから」

待つときや。」

車上荒し1「ほっほっほっ。」

俺「変なじいさんやな・・・。」

車上荒し2「おいオマエ！口のきき方に気をつける！」

俺「何が口のきき方や！アホ！車上荒し様、少々お待ち下さいませって言うんか！

ほんまアホかボケ！」

車上荒し2「な・・・！」

こいつプルプル震えながら頭から湯気出そうな感じでイカリングや。

イカリング めっちゃ怒ってるって意味やで。

何かこいつの手の周辺歪んでる様に見えるんやけど・・・気のせいかな？

車上荒し2は俺に手を翳し・・・

車上荒し2「?????!」

と言った・・・と思っけど・・・。

いつもの非日常？

目が回ってる……。

本当に……。

まああれだ、ウルトラマンのオープニングのグルグル渦巻いて最後にウルトラマンって

出てくるやつだ。……たしかそのはず……だよな？

しかも、視界に入る色がテンプレ的白色だから、余計に酔いそうなんやわ……。

俺「おえ！……吐きそう……。」

??「吐くのは勘弁じゃな。」

俺「誰や？」

そう言いながら声のする方を見ようとするが、未だに視界グルグルコースでよう

分らんわ……。

??「しょうがないやつじゃわい。」

そう言われて体が何かに包まれるような感覚があった。

??「もう大丈夫じゃろ？」

俺「あ・・・ほんまや・・・。」

視界が急に開けた感じってやつになった。

俺「視界グルグルコースが嘘の様に視界クッキリクリンビュー！」

って俺アホやん。

改めて周りを見渡すと・・・。。。

白一色！

しかも・・・俺浮いてるやん・・・。

宇宙って黒色やん？それが白になった感じ。

俺「おわ！なんじゃこりや（松田優作風）」

マジちびりそうや。

人間って地面の上で生活してるやん？それが急に中に浮いててたら  
どう思う？

普通ちびるやんね？ってか俺はちびる！

俺「どないなってるねん！まっ・・・まさか・・・。」

??「そのまさかじゃの。」

俺「俺の脚にバーニヤが……。」

??「そつちか……。違うわい。」

俺「なつ！まつ……。まさか……。」

??「今度こそ、そつちじゃな。」

俺「俺が飛行石持ってたなんて……。」

??「またそつちか……。これこれ、ポケット探しても出てこんわ。」

俺「なつ！まつまさか……。」話が先に進まんからもういいじやろ。  
「やんね。」

俺は突っ込まれた方を見たら車上荒し？が浮かんだ。

俺「車上荒し？やん！」

車上荒し？「……ようやく先に進めそうじゃわい……。」

はあって言うなよ。

俺「ここどこ？」

車上荒し？「ここは煉獄じゃ！」

俺「マジ……。」

(――。 。) ヒィィィ! (。 。――)

車上荒し?の言う事聞いてたらマジビビってきた・・・。

まさか俺が煉獄とは・・・。

まさか俺が昼飯代のおつりちよろまかしてたからか?

会社のボールペンパクツてたからか?

はっ! もしゃ! (。 。;) 又オオ!?

もはやこれがバレてるとしか思えん・・・。

(〃。 。; A アセアセ・・・

会社のPCからエロサイトに接続してウイルス感染した件だ・・・。

俺「観念したぜ・・・セニョール。」

車上荒し?「セニョール?観念?」

俺「みなまで言わせる気か・・・。」

車上荒し?は俺を不思議な生き物を初めて見た様な目で見てる・・・。

視線が痛い・・・。



車上荒し？「まあ煉獄は嘘じゃ。」

てへって感じでこんな嘘言うなよ。

俺「なんや」と！マジ焦ったやんけ！」

そう言っていると車上荒し？は手を大きく横に振った。

いつもの非日常？（後書き）

顔文字使い過ぎ？

いつもの非日常？

車上荒し？が手を大きく横に振る姿を見てた。

すると、急に目の前に地面が出現！しかも家も目の前に有る！

でも・・・。

この地面狭くね？

石畳の通路が有るし・・・。

何か・・・界王様の家にそっくり・・・。

そうそう、小さい球体の上に家とバブルス君が住んでる場所。

それそっくりなんやわ。

俺「車上荒し？何やつ！」

ちよつと時代劇風に言ってみた。

車上荒し？「神」

俺「髪？」

自称髪「神じゃ。」

俺「そうか・・・紙か・・・。」

自称紙「これこれ、髪だの紙だの使い分けるでない。」

うむ・・・テンプレ的な感じになってきたのはいいが・・・。

気にはなつててん・・・小説の主人公達が行くを逝くと言われて、それを

認識してたりとかね。

俺も今試したけど紙だの髪だの言って誤認識してるように見せてみたけど

しつかり漢字認識してるんやね。

不思議やわ。

俺「で、その神が俺を拉致してどうするつもりなん？」

神「慌てないんじゃな。大抵は、叫んだり罵倒したり跪いたりはあるがの・・・。」

以外だねって顔しながら俺を見てるが、俺は伊達に社二病

（厨二病の進化系？社会人だし。）を患ってはないのだよ明智君。

俺「ふっ・・・。俺を見縊るなよ！」

一旦流し眼、そして！カツと見開いて神を見る！

か・・・完璧に決まった！

神「キモイの。」

そして、崩れ落ちる俺・・・。

いつもの非日常？

崩れ落ちる様を仄々した目で見られても困るねんな。

何でここで突っ込み無いのかな・・・。

まあそれはいいとして。

俺「で、話を続けようじゃないか。」

とりあえず、話は先に進めないかね。

神「うむ、そうじゃの。お主はここに来る経緯は覚えておるか？」

俺「もちのロンよ！」

あれ・・・？よく考えたら、車上荒し？に何かされてからの記憶ないわ・・・。

(・・・)アセアセ...

神「じゃろうな・・・。」

俺「えーっと・・・。車上荒し？に何かされてからの記憶が御座い  
ません。」

何処かの政治家の様な受け答えを試みた。

何とか還元水とか言えればいいかな？

神「ふむ、じゃろつて。」

俺「で、で、車上荒し？はいずこえ？」

神「聞きたいのかの？」

いや・・・待てよ・・・ここで聞いたらヤバそうな匂いがする。

好奇心はにゃん子をもKILLと言っしな。

俺「聞きたいっす！」

ごめん、好奇心には勝てませぬ・・・。

神「簡単に言えば修行に出したんじゃわい。」

修行つて・・・界王様か？このお方は・・・。

とりあえずバブルス君はどこや？

神「何をキョロキョロしておる？」

俺「いや・・・バブルス君は居ないのかな？つて・・・」

神「ああ・・・、今買い出し中じゃ。」

おお！いるんかい！

神「嘘じゃがの。」

俺「…………。」

嘘かい！

神「猿がウホウホ言いながら歩き廻ってたらキモイじゃろ。」

バブルス君乙……。

神「まあそれはいいとしてじゃ、あやつは今地獄で修行させておつての。」

なぬ?!地獄?!

よもやここで地獄のキーワードが飛び出してくるとは……。

神「まあ現界でお主をミンチに変えたからの。」

そうか……それは大変……。

?????

俺ミンチ?

ハンバーグ?

合挽き?

M a d e   i n   o r e ?



それ旨いの？

俺「普通なら恐れおおく誠に大変申し上げ難いキーワードが炸裂したのですが・・・？」

神「怒りで我を忘れ、お主をミンチにしてもうたのじゃて。」

さらっと言いやがった・・・。

俺「ぬうおおおおおおお！」

神「そう喜ぶな。」

俺のどこを見れば喜んでる？それこそ奇奇怪怪じゃ！

俺「おうおうおう！おんどりゃ！めんどりゃ！こないな事になってどないケツ拭くんじゃい！」

ここ怒っていいやんね？神なんて関係ないやんね？

神「そこで提案じゃがの、お主の希望する世に送り出すのはどうじゃ？」

俺「おう！おう！おう？」

（。。。ん？

何かとてもテンプレ的魅惑的なワードが・・・。

俺「まあ俺も小大人（ことなつて読んで、大人になりきれない人）

だ、話は聞いてやる。」

俺「さあ話せ、今すぐ話せ！」

神「まあそう急かさんでもちゃんと話はするから待て。」

## いつもの非日常？（改）（前書き）

自分で読み返して誤字脱字があつたので改訂しました。

## いつもの非日常？（改）

神「まずは、お主に謝罪せねばならぬな。我が子がお主にした事は理に反することじゃて。」

俺「まあ・・神に謝られるのは初めての経験やけど、あんたがした事やないから許したるわ。」

面と向かって言われると恐縮致します。

神「では、説明するがの。まずお主が車上荒し？と言ったのはウリエルと言う名での、お主の世界での少しは名が知れてると思うぞ。」

ウリエル？

ムリエルなら知ってるけど・・。

俺「うむ、その様な高位の物であったか。」

時代劇風に展開してみよっと。

神「ウリエルは可愛い子なんじゃが、少々堅いところがあったの。お主の言葉使いに我を忘れてもったんじゃわ。」

ふむふむ、親バカ？

俺「が、行いは理に反すると言つことでおじやるな？」

神「うむ、そうなのじゃ。」

おじゃるって言うてもうたけど、華麗にスル　パスされた。

神「そこで、あやつの為に修行に出したんじゃ。まあ地獄に行ったと言っても、墮天した訳ではないので、まあ1000年もすれば戻してやるうと思うのじゃが、お主はいいかの？」

1000年ですか・・・？

千年万年百万年リンの騎士は一億年って言うしな、まあ大丈夫やろ。

俺「是非も無し。」

キリつと決めたぜ！

(´・`・´)　フツ

神「そう言ってくれて助かるの。まあ閻ちゃんに頼んだし大丈夫じやろうと思うが心配での。」

ん？閻ちゃん？

俺「閻ちゃん？」

神「おお、閻魔王じゃ。やつとは囲碁友達での。閻ちゃん神ちゃんの仲間じゃ。」

えらいフランクやの・・・。

天界と地獄界との境は無いんかい。

神「お主の命を奪った事に対してのその後じゃが、お主の魂を3/4もろうつて蘇生させておいた。」

そんな簡単にできるん？

俺「魂の3/4で大丈夫なん？」

神「大丈夫じゃ。残りの1/4は神界のマナを入れておいたからの。」

マナ？？なんじゃ？魔力的なもんか？

神「理解しづらいようじゃから、噛み砕いてはなすと、人の魂は水風船の様なもんで、お主の魂を3/4入れても膨らみきれんのじゃ。そこでワシが謝罪も込めて、ちーつとばかり神界のマナをちよるまかして入れたんじゃよ。そうすればお主の水風船はパンパンじゃ。」

俺「よく分らんけど、その神界のマナ入れて交わるもんなん？」

神「普通に入れたら破裂じゃ。」

えっ……？破裂？

（――。）。ヒイイイ！

俺「破裂したらどうなるん？」

恐る恐る聞いてみた。

神「天界にも地獄にも行けん、存在自体がリセットじゃ。」

( ( ( ( ( ( ( ;  
。 ( ( ( ( ( ( ( ガクガクブルブルガ  
タガタブルブル

神「でも、入れるのがワシじゃから秘伝のレシピで簡単作成じゃ。」

。 + ・ ( ? ? ? ? ? ) 。 + ・ わあ 秘伝のレシピ最高！

神「そうして、もう一人のお主は現界で、普段通りの生活を営んでおる。まあ少々問題は有るが・・・」

( \* . . ) ? 問題 ?

俺「それって非常にマズイ事態？」

神「いやいや、マズくはないんじゃないやが神界のマナを入れた事でもう一人のお主は人として能力が上がってもうての、カリスマ性・頭脳・精神力・体力共に人の限界を超えたんじゃないや。」

（ ・ ）  
　　＞　　なんだって？

加納姉妹真っ青なカリスマ？

コナン君もガクブル頭脳明晰？

片道切符握り締めた特攻隊に志願できる様な精神力？

ラオウの体力？

これって人外じゃね？

神「お主の嫁はお主を疑ってるみたいじゃな。」

まああの嫁なら当然やな・・・。

俺「まあ俺がいなくなつて子供が悲しむ姿みたくないしな。ありがとう。」

ちよつとセンチメンタルジャーニー  
。。。。シクシク。。。。（\*ノ、\*）

神「でじゃ、お主の魂は通常の1/4しか無いんじやが、ワシがマナを入れといたでな。」

つてことは、もう1人の俺以上のパワーを持つ俺がいるわけやね。

ウリイリイ  
！

ジヨジ ってみました。

俺「それってもう一人の俺よりパワーアップ？」

一応確認しないとね。

神「そうなるの。」



やっぱり素敵なパワーGETだぜ！

俺「して、その私めのスペックはいかほどで？」

神「それは後のお楽しみじゃ。」

(?????) いや〜ん。おあずけですか？

そんな性癖ございませんのことよ。

いつもの非日常？

神「お主の身体的ステータスじゃが。おおよそ天使級じゃな。」

おお！エンジェル　　？？　　？？　　＼（＊、＊）／　　？？　　？？  
 ！！！！

神「それとじゃ、肉体再生もあるぞ。頭吹き飛んでも、原子分解されても元通りじゃ。」

( ？ ？ ？ ？ ？ ) フフ・・・チート過ぎる！無双できるやん。

神「あとは、魔力の天井はない。」

俺「魔法使いたい放題？」

神「そうじゃの。お主の魔力は体内に有る魂、言つなれば神界のマナが自動生成してくれるからの。」

ヤタ  
、（、  
、。  
、（  
ノウヒヨ  
！！！！

神「じゃが、元々お主は魔法を使えんじやろ？ 覚えんと使えんわ。」

ガ  
?  
。  
。  
\*  
川  
ン!  
ン!

神「まあここまでは神界のマナのおかげじゃが、今からお主が向かう世界はお主の世界で言う所の中世ヨーロッパじゃ。もちろん魔法も使いよる。魔物もいるし、人間以外はエルフ・ドワーフ・ドラゴン・獣人・魔族なんかもある。いくらお主が天使級と云えど

も、このまま送り出せば1日とて生きてはおられまい。そこで、お主に追加サービスで能力を授ける事にした。」

さ(\* O ) b い(\* I ) b こ(\* o ) b う(\*  
3 ) || b

いよいよ俺の時代がきたか(？、^？ ^？、)？

俺「じゃあ何個か欲しい能力あるんやけど、言つてええかな？」

神「ええぞ。」

俺「じゃあ、転生先の知識が欲しい。でも、個人名とかいらんから。生物名とか通貨情報とか国名とか地図、世界の常識とか要人の知識だけでええわ。」

神「ほれ！」

神が俺にカメハメ波みたいなのを放つたとたんに頭の中に知識が流れ込んだ。

俺「攻撃されたかと思つたわ……。で、次は地球上で剣豪たちが血の滲むような努力をして編出した古今東西の剣術・乗馬術・弓術・格闘術と陸・水の軍略の能力が欲しい。」

能力高くても素人じゃね……。返り討ちにされる可能性大！

二天一流とか使つてみたい！諸葛孔明バリの戦略たててみたい！

神「ほれ！」

またまたカメハメ派

俺の体に力が湧き興る感覚が襲う。

俺「あとは、創造物の具現化能力。」

神「ふむ、それは具体的にどこまでの具現化じゃ？」

よくぞ聞いてくれた。

俺「そもそも俺の想像できる範囲はしれてるし、有る程度の想像をすれば後は自動補正的何かで具現化出来るようにしてくれへん？それは、どんな物を具現化しようともね。但し生命は生み出さへんから安心してや。」

神「まあ具現化の自動補正は、お主の地球に存在する物を具現化する時に自動的に付加されるようにすればいいんじゃない？」

俺「そんな感じで。後は、天使級って事で任意で天使の羽を背中から出せたりする能力って欲しいんやけどね。」

送り出されたとたんに、空中から落下パターンは避けたい！

俺「これで最後やけど、俺の子供に神の祝福を与えてやってくれへんか？」

神「本当にそれが最後の望みでいいのか？」

俺「ええよ。俺が最後にしてやれる事やし。これからの人生、何歳

まで生きるか分らんけど・・・幸せな人生を歩んでほしいねん。」

神「・・・分った。」

俺「じゃあ、早速送ってくれ。」

そう言ったとたんに俺の体は目を開けるのが辛い程の光に包まれた。

神「最後の最後に子を思いやるか・・・あやつを少々見縊っておったの。最後のプレゼントをしてやろう。」

そう呟いた神の姿は先ほどまでの年老いた風体ではなく、凛と背筋の通った若い男の姿になっていた。

## いつもの非日常？（後書き）

子供2人は優しい旦那に嫁ぎ、幸せいっぱいな人生を歩んだそうです。

**俺降臨！（前書き）**

PV1500、ユニーク300突破しました。みなさんありがとうございます。

俺降臨！

眩い光から目が覚めると、そこは……。

砂漠でした。

俺「普通森に出るとかやる……。」

辺りをよくよく確認（．．．．．）キョロキョロ

テンプレ的なら魔物がすぐ近くに居て、涎垂らしながら俺を襲うなんて事有りそうやもんな。

俺「魔物無し。」

ちなみに俺裸・・・（；）アハハ…

俺「送るなら服着たまんま送ってくれよ……。しかも、普通こんな世界に送る時とかってプチマツチヨな状態やろ。メタボのまんまやし……。」

えーっと、とりあえず裸はマズイ……。

何でかって？砂漠やで？全身火傷する程の日差しやで？

HEY！ウェーター！俺をウェルダンで！なんて洒落にならんわ。

ん？足元に便箋一枚落ちてるね（．．．．．）キョロキョロ（．．．）



やっぱ俺宛？

まあ読めば分るか。

俺「ふむふむなるほど。」

わからん……文字が……（、……、

俺「こんな時こそ！翻訳コンニヤ」！

初めて使う能力が翻訳コンニャってどうよ？

悲しくね？

俺「ふむふむ、なにになに？ お主がこれを読んできるといことは、無事送り出せたということじゃの。さて、お主の子供にはワシから法王も嫉妬級の祝福を与えておいた。それとは別にお主にはワシからのプレゼントを用意しといたぞ。空間魔法と探知魔法じゃ。送り出した時にお主の知識に加えておいたで、すぐにでも使用可能じゃ。空間魔法は知つてると思うが、ドラえも の4次元ポケットみたいなもんじゃ。その空間に入れた物は時間が止まるゆえに食料は腐らんし物質は劣化せんぞ。ちなみに、生き物入れたら死ぬぞ。くれぐれも入れぬようにな。探知魔法は単純にレーダーみたいなもんじゃ。円周50kmまで探知可能じゃ。まあ50kmまでいくと大まかにしか分らんかの。そこは自分で試して覚えるのも一興じゃな。では、また会うのを楽しみにしておるぞ。」

そつか・・子供に法王も嫉妬級の祝福与えてくれたか。・・（  
＊ノ、＊）・・。シクシク

考えたらホームシックになるわ。・・・（＊ノ、＊）・・・。  
シクシク

俺「で、とりあえず服を具現化しよつと。」

想像中・・・・・。はい出ました！

俺「ってスーツ出しといたけど、冬用スーツじゃあ暑いからやり直し・・・。」

想像中・・・・・。はい！今度こそ！

でたけど・・・川口ひし探険隊みたいな服やん・・・。

まあ無いよりましか・・・。

練習して錬成度合いをUPせんとあかん。

えーつと・・・・次に出すのはつと。

えい！

とりあえず、自分の能力とか知る為にはゲームのステータス画面みたいなのがいいやんね。

それを見れる様にする薬的？な物を錬成してみた。

俺「しまった！薬的にしたら龍角散みたいなのになってもうた！水無いのに・・・。」

ゆくよく考えたら水を錬成すればええやん。

ほいっと。水完成！

ごくごく飲んでと。

俺「ステータス画面起動。おつでたでた。」

Lv1

名前 小西裕之

年齢 38歳

筋力 C

体力 E

魔力

俊敏

器用

精神

運

称号

能力

世界の知識Lv.50

X 弓術Lv. MAX

剣術Lv. MAX

刀術Lv. MAX

騎乗Lv. MA

格闘術Lv. MAX

軍師Lv. MAX

特記

神の祝福

天使の羽

魔力自動補充

肉体自動再生

職業

サラリーマンLv1

装備

川口ひし探険隊装備一式

預金

0

怠け者Lv.1

空間魔法Lv.1

探知魔法Lv.1

無し

SSS

D

D

D

E

C

38歳

小西裕之

Lv1

ステータス画面起動。おつでたでた。

ごくごく飲んでと。

ほいっと。水完成！

ゆくよく考えたら水を錬成すればええやん。

このステータスどう思う？普通？弱い？

標準がわからん・・・。

でも、体力Eってあからさまに弱くない？メタボやから？

サラリーマン10数年やっててLv.1？これって新入社員並じゃね？

怠け者って能力？？？

装備が・・・。

もう何も言つまい・・・。  
+。  
（。  
、。  
、。  
（。  
+。

昔の俺よサヨウナラ〜（前書き）

皆さんに読んでいただけて感謝です。

## 昔の俺よサヨウナラ

さてさて、落ち込むのもこれ位にしてと……。

次はまだまだ日差しが厳しいし、日避けのテントでも作りますか。

ほいっと。

出たのはドーム型テント。2〜4人用ってところか。

俺「何で箱のまま出るんかな……。組み立てた状態やる普通は……」

文句を言いながらも組み立てる俺。

俺「できたできた。さすがに砂漠やから杭打ちはできんけど、風無  
いしええやろ。」

次は何作ろうかな……。。

まあできるできへんは別にして、錬成度UPせんとろくな物作れん  
から何でもいいからどんどん作るとしよか。

————数時間後————

辺り一面にゴミの山……。テントを中心に周囲10m、高さ2mのゴミ  
ウォール……。

俺「テントの周りにゴミの城壁できた……」

俺「まあ・・・これだけよう作ったわ。我ながら感心するな。使える物だけテント入れよっと。」

えーっと、鏡・ちゃぶ台・急須・湯呑み・座布団・靴・靴下・クーラーBOX・蠟燭・皿・茶碗って・・・所帯道具ばかりやん。

まあでも当然ジャポネーゼとしては必需品！

俺「ここって魔物おらんのかな？おらんのやったら当分の間はここを拠点に色々練習しよ。」

ーーーーー2年後ーーーーー

俺のテントは進化したで！ドーム型からロッジ！

んで、家財道具も進化したけどめんどくさいし省くけどな。

ロッジの周りにオアシス作ったで。

池作って、木を植えたし、地面はもちろん芝生！

池って言っても琵琶湖くらいの大きさやけど・・・調子にのって作っちゃいました。

（　　^ 曲 ^　　）　　笑（　　）　　）

木を植えたら林になってたしね。

まあ色々あったよ？魔物も実は居たしね。

ゴカイの親分みたいなやつ。

周辺を探検した時に蟻地獄みたいなのもあった。

まあとにかくや、俺は今特に緊張してる。

あれから何度も薬を作って実験しててん。

何をかって？ふふふ（　　、　　）キラ・ン

メタボ解消薬！約してゝ痩せ薬ゝ

約してないって？ほんとやね（　　）アハハ…

でだ、その薬が完成した訳だよ明智君。

今はリビングで薬とニラメッコ。

飲みたいんだけど、前に作った薬飲んだ時に地獄の苦しみを味わったからさ……。

どんなかって？

例えば難しいんやけど、全盛期のマイクタイソのパンチを何度も腹に受ける位かな。

俺「えーい！このままやったら埒があかんわ！」

ぐいっと飲んじやいました。



俺「ぐおおおおお！」

俺の腹や腕、足など全身が波打つように動いてる。

あれからどれ位の時間が経過したかは分らんけど、どうも気絶してたようや。

俺の体になにが有ったか分らんけど、とりあえず鏡見よっと。

俺「なんじゃこりや（松田優 風）」

鏡を見れば、20歳の頃の俺がいた。

そう、あの頃の俺は70kgの細マッチョだった。

俺「やあ昔の俺！メタボな俺ともオサラバえ〜。」

他人から見れば鏡を見ながらポーズを取るキモいやつだろうな。

俺「ナイスポーズで〜す！」

でも、そろそろ1人も寂しいし、最初の目的の練習もできたし、そろそろ移動しよっかな。

と、その前に武器とか装備を変えんとあかんから……。ほいっと。

侍風な和服に刀を1本。

和服のそでの中に陣を書き、4次元ポケット化済み！

これでリュックいらすさ！

とりあえず、刀は赤松太郎兼照！現代刀で、我が愛刀。

2尺4寸5分でもちろん樋は無しの実戦向き。

さらに、出す時に強度も上げといた。

俺「寂しかったか？マイボ〜イ！」

ちよつとキモイですが、抜刀術やってる時使ってたやつで手に馴染んでるやわ。

さてさて、ここはセキュリティを強化した状態で秘密の隠れ家にしとこ。

我が領地（勝手に領地化してます。）のセキュリティはセコ君1号〜100号までのロボットが請負ます。

そのロボットの見た目は・・・まんまダースベイ。

ライトセーバー装備でもちろんフォースも扱える優れ物。

安心して任せられるわ。

ちなみに俺も自分用のライトセーバーを後日作るんやけどね。

んで、毎日そのダース君と訓練してたから俺もオビワ くらいにはフォースを扱えるようにはなった。

まあ純粹にはフォースじゃないんやろうけどね。

あと、世界の知識にあった魔法の情報もあったし初級属性魔法も習得済み。

何で初級だけかって？

ファイヤーボール使ったその日に砂漠に直径1kmのクレーターができたからさ（^-^;）

中級以上は習得してるけど、使った事ないし、未習得と同じということ。

俺「そろそろ移動しよか。これから俺の物語が始まるZ E！」

俺は城門を開けて北へ向かった。

昔の俺よサヨウナラ（後書き）

LV15	名前	小西裕之
年齢	40歳	
筋力	B	
体力	B	
魔力		
俊敏	A	
器用	C	
精神	B	
運	SSS	
称号	無し	
能力	怠け者LV・1	空間魔法LV・15 探知魔法LV・
5		
	フォースモドキLV・13	世界の知識LV・50
	剣術LV・MAX	刀術LV・MAX 騎乗LV・MAX
	弓術LV・MAX	
	格闘術LV・MAX	軍師LV・MAX
特記	神の祝福	天使の羽 魔力自動補充 肉体自動再生
職業	サラリーマンLV1・自宅警備LV・20	
装備	和服・笠・赤松太郎兼照改	
預金	0	

## 初期設定（前書き）

時々ブレたり急な御都合主義になったりならなかったり・・・。  
時々この初期設定を追加して煮詰めていききたいと思います。

## 初期設定

世界名 アントワズ

地球と同じ位の大きさ

大陸は大きく分けて3つ

ユーラシア大陸の1・2倍程の大きさの メルン大陸

北米と南米を合わせた大きさの大陸 ゴーズ大陸

オーストラリアとニュージーランド合わせた大きさの アント大陸

他には大小合わせて様々な島があり独自の文化が発展している

メルン大陸は人間・獣人・エルフ・ドワーフなどが住んでいる

アント大陸は完全に魔族のみ

ゴーズ大陸は少数の人間・ドラゴン族（竜人）・巨人族が住んでいる

文化レベルは中世ヨーロッパ

魔法は 初級・中級・上級・古代・禁断 と有り、火・水・風・土・闇・光の基本属性魔法以外に複合魔法（雷・氷など）も有り、禁断魔法の中に次元魔法（4次元ポケット）が有る。

ちなみに、探知魔法は土と風の複合魔法に属する。

エルフが使う精霊魔法は、古代エルフ魔法と現在のエルフ達の使う魔法がある。

古代エルフが使う特殊な魔法はルーン文字で書かれた魔法陣やアイテムが多く、現在ではその技術は失われている。

もちろん、古代エルフも精霊魔法を使っていたらしい。

人間は、白人系・黒人系が多い。黄色人種は少数民族のみとなる。

竜人は、火を使うレッドドラゴン・水や氷を使うブルードラゴン・風を使うホワイトドラゴン・光を使うゴールドドラゴンに分れるが、左から順に数は少なくなる。

獣人は虎族・狼族・鷹族・神獣族・熊族など  
ユニコーンやpegasusなど

巨人族は平均して3mほどの身長

ドワーフは130cm程の身長で、筋肉ダルマの様な感じ

通貨は 銅貨・銀貨・金貨・金板

銅貨10枚で銀貨

銀貨10枚で金貨

金貨100枚で金板

金板は主に高額取引の有る国家間などで主に使用されている。

銅貨1枚百円くらい

銀貨1枚で千円くらい

金貨1枚で一万円くらい

金板1枚で百万円くらい





## ポッチは従者をGET

砂漠って歩くの難しいわ。

オアシス出てから2日経つ。

だいたい150km〜200kmくらい歩いたかな？

最初に作ったテントに温度調節機能を追加したおかげで、砂漠の夜もバッチリやし、テントの底には魔法陣を作って、テント自体をステルス機能（魔力探知不可！洩れたらモンスターの餌食ですけん）を更に追加したし、セキュリティもバッチグーや！

でも・・・ぽつちな旅は寂しいね。・・・（\*ノ、\*）・・・。  
シクシク

そこで、旅は道ずれ世は情け計画を発動する事に決定した（。？？  
？。）ニヤリッ

ロボット作りますです。

何を作るかで凄く悩みました。

で、作ったのはレディー！え？知らない？コブ に出てくる主人公の相棒です。

でも、能力やスタイルは好みにいじりました（。、。）ニマア

しかゝし！人工AIにプレイボー に出てきそうなスタイル！完璧

ですよん！

ちなみに私、巨乳星人ですけん。Fカップはあります。

でも・・・チタンで作ったから堅いねん（\*´・´\*）――

次メンテしてやる時までそこだけは柔らかくせねば・・・。

まそれは次の課題としても、とりあえず魔法も使える様にしたり、家事能力は完璧にしたり、俺の知識の少しをインプットしたり、戦闘技術もインプットした。

他に何かインプットする事あるかな????

ああ・・・忘れてた・・・。

この顔のままなら確実に怪しいわな・・・。

よし、容視変化の能力付けるか！

でも、実際にはレディーのまんまやけど、まあ一種の幻覚みたいなもんでレディーを見る相手には別の容視に見える様にすればOK！

え？どうやるのかって？

まず、レディーはロボットやから普通は魔法使えんわね？でも、俺が錬成した魔石に魔力を入れて、その魔石に自動回復能力を付けたわけ。

まあレディーの心臓部やね。

大きさはほんとに人間の心臓程の大きさ。

でも、混じりつけ無しの100%魔石って俺の魔力の半分近くもつていかれたんやわ。

一度起動すれば、破壊される事が無い限りは燃料切れはないのだよ。レディー自体の魔力はこれで俺の半分の力で、ボディーは自動再生機能もおまけしたし、十分チートなロボットに仕上がってしまったわけだよ（皿） 二ヒヒ

まあ足りない機能は後日追加すればええし、まずは起動しよう。

ロボ「現在起動中……。」

えーこの声が聞こえてかれこれ1時間起動中です……。

何か間違えたかな？

フリーズ？

何て考えてたら、どうやら次の段階に移行するみたい。

ロボ「エラーチェック中……。」

また1時間コースかな？

ロボ「データ チェック中……。」

今回は早いな。

音流れてきたぞ？しかもウィンドウズ起動時の音や……。

ロボ「マスター登録開始します。マスターの血液を心臓部の魔石に

垂らしてください。」

なんだか・・・血の契約みたいになってきたわ。

ロボ「登録完了。小西裕之様、次は私の名前を決めてください。」

血を垂らただけで俺の名前分るんや・・・。

俺「そうやな・・・。花子「却下です。」えっ？却下機能有るん？」

ロボ「名前を登録してください。」

俺「スル ですか・・・？だったら・・・FSSのファティ から  
パクツて、ウリクルは？」

ロボ「登録しました。次にマスターは服を脱いでください。」

俺「え？服脱ぐん？「冗談です。」・・・。」

ウリ「以上で完了ですが、何かご質問は御座いますか？」

俺「却下機「その質問にはお答えできません。」・・・。」

どうしてもダメなんやね（o；；o）ウウ・・・

俺「じゃあ質問は無いよ。まず用意した服を着てくれるかな？」

ウリ「承知いたしました。」

そう言っていると彼女は服を着ながら私に質問をしてきた。

ウリ「私は現在知識はありますが、細かい人間の感情などは理解するには知識と経験が御座いませんで、感情等のデータを頂きたいのですが？」

俺「ん？まあ無愛想なんよりええし、今からデータ 入れるわ。」

そう言いながら彼女にデータ を流し込む。

ウリ「人間の感情とは面白いんですね。」

徐々に理解を深めていったのか、彼女は少し楽しそうだ。

俺「まあ楽しい事や面白い事ばかりでもないけどな。憎悪や嫉妬もあるしな。」

ウリ「そうですね。」

俺「まあとにかくこれから宜しくな。」

ウリ「未長くお仕えさせていただきます。」

こうして、俺のぼっちは幕を閉じた。



## 異世界の車窓から？

オッス！おら裕之！  
皆元気にしてつか？

俺はあれから錬成で馬車（デザート仕様）を作ったよ。  
何がデザートかって？

普通馬車は車輪やけど、デザート仕様はソリみたいな感じに仕上がってる。

しかも、ソリ板に魔法陣書きこんで板の下の部分の砂が若干堅くなるようにしてる。

しかも馬車とは名ばかり！馬いらずの見た目馬車の車だね。  
推進力は風魔法。

後方部から風魔法が出て推進力を得る仕様になってる。

幌はただの布だと暑いし、火つけたら燃えるから不燃布で魔法陣で温度調節機能付き。

外気温は50度近いけど、中は23度で快適。

一応ステルス機能もつけといた。

こんな人に見られたら怪しすぎ。

でも、こんな砂漠での旅もそろそろ終わろうかとしてる。

ウリクルを作ってから1ヶ月間を砂漠で過ごして、だいたい5000kmくらい走ったかな？

その間オアシスは無し。魔物有りの電デンジャラスな砂漠と判断した。

これなら俺の領土（誰も認定してません）も誰かにばれないし安心やわ。

俺「そろそろ砂漠抜けそうやな。もう景色に飽きてきたしちょうど

ええわ。」

ウリ「そうですね。草が少しずつ増えてきたので、そろそろこの馬車も普通の馬車に戻した方がいいのではないのでしょうか？」

俺「そやな。もう少し足場安定したらそうしょか。」

ウリ「そろそろランチにいたしますか？」

俺「わーい！ご飯や！」

ウリ「ふふ。今日も腕によりをかけて作りますね。」

（マスターはご飯の時の返事・・・いつもかわいいです。）

俺「何か音聞こえへん？」

フラグ立った？

ウリ「探知してはどうでしょうか？」

俺「そやね。」

うーん・・・テンプレ臭が漂ってきたわ。

魔物反応200・・・??

え？200？多くね？

この反応は人かな？初めてやからよう分らんけど・・・。  
何か襲われてるっぽい。

人（仮）反応は20みたい。

あ・・・19になった。

魔物は200のまんまやし。



俺「襲われてるみたいやな。」

ウリ「どうなさいますか？助力なさいますか？」

俺「うーん・・・どんなやつが襲われてるか分らんしな・・・様子見に行つて、助けた方が良さそうやったら助けてくるわ。ウリクルはそのまま料理続けといてや。」

ウリ「承知いたしました。では、行つてらっしゃいませ。」

そう言いながら俺は馬車を飛び出した。

俺「うーん・・・残り9か・・・やばそうやな。」

ぶつぶつ言いながら走る様は他人から見たら痛い人なんやろ・・・。

うわ・・・魔物つてゴブリン・オークやん。

連合艦隊組めば弱い魔も強くなるわけや。

数の暴力つてとこやね。

俺「今まで暇潰しに作った銃で狙撃してみよつと。」

現状は大きな馬車を中心に騎士らしき人たちが半円を組み防御してる状態。

H&amp;P;K PSG1とバレットM82A1とM4A1を取りだす。

まずは、PSG1で狙撃。やつらまでの距離はおおよそ600m。

ズドン！と体に反動来るね！これは無反動の改良の余地ありやね。

うお！オークの上半身吹っ飛んだ！弾も貫通して2次被害も出てる。

ちなみに弾は徹甲弾。

面白いように吹っ飛んでくわ！

鎧着てるけど、紙切れみたい。

次はと、バレットと・・・。

これも可愛そうなくらいに吹っ飛んでくな・・・。

そんなこんな練習？してたら魔物の数が100まで減ってきてた。

でも、やつら俺に気がついたみたい・・・。

小隊（10匹）らしき部隊がこっちに来てる！

動くので練習練習。

うむ・・・30秒も経たず全滅させました。

この銃達が強力なのか、こいつらが弱いのか分らんようになってきた。

これで残りは90程度で、人は5名か。

残りの5名は精鋭っぽいな。

もう少しは持ちそうやから、狙撃で数減らそつと。

あれから1分・・・残り魔物も残すところ20匹。

そろそろカービン持って歩きながら狙うか。

ズガガガと打ちながら歩を進める。

俺が馬車に着く頃には全滅させました。

俺「大丈夫か？」

声をかけてみたけど、俺が来なかったらジェノサイドやったんやね  
って位に死んだ騎士達の体は細切れにされてた。

騎士？「はあはあはあ・・・助けてもらい感謝いたします・・・。」

肩で息しながら憔悴仕切った声をだして返事してきたね。

騎士？「私はアグリード王国近衛騎士団副団長 アルマ・コンド・  
フォルンと申します。」

少し呼吸を整えたみたい。

俺「俺の名前はヒロユキ・コニシと言います。旅の途中でこの戦に  
出くわせただけで感謝はいいですよ。」

声からして女性やね。

アル「いや、そう言う訳にはいきません。今回は護衛任務中の襲撃でしたので、もし全滅していたら……。」

はい！フラグ成立！

俺「たまたまですから。」

そう言いながら生きてる人は居ないか探知してみた。

俺「けが人の手当てを優先した方がいいんじゃないですか？」

アル「御気使いありがとうございます。」

そう言うのと他の生きてる人に指示を出し始めた。

まあ探知した限りでは5人＋重傷者3名だね。

俺「何してるんですか？」

傷の手当てって言うっても空き馬車に乗せてるだけやし……。

アル「今はポーションも無くて……。」

俺「それって死ぬんじゃないですか？」

アル「……近くの町に着くまで生きているかどうか……神に祈るしかありません……。」

そうなんや……ポーション無いって高価やからかな？

俺「何で無いんですか？護衛対象の人が怪我した時はどうするんですか？」

アル「いや・・・その場合のポーションしかないんですよ・・・。」

そんな会話してたら馬車から1人の女性と1人の年配の男性が出てきた。

その女性はだいたい年は24・5位で、ブロンドにナイスバディー！

俺のナイスバディー基準は巨乳で細身！

年配の男性はだいたい60位でまんませバスチャン的な人。

アル「姫！」

そう言つと片膝をつき跪いた。

姫「アルマ、魔物は殲滅できたようですね。」

アル「はっ！こちらの旅人であるヒロユキ・コニシ殿の助力により全滅は免れました。」

姫「それ程の数が襲撃して来たのですね・・・。」

アル「はっ！おおそ敵の数400程でした。」

姫「400！貴方達護衛数は50人でしたので・・・数で押されたら危ないですね・・・。」

アル「はい・・・今現在生存しております騎士団は5名と重傷者3名です。」

姫「ポーションを使っても2名分しかありません・・・。」

アル「いえ！それはいざと言う時の為に姫に使用していただくもので、我らにはもったいない物です。」

姫「いえ、人命優先です。」

ああこのお姫さんってかなりいい人やね。

アル「では・・・。」

そう言うのと、アルマは急いで重傷者のところに走って行った。

姫「コニシ殿、この度は我らをお助けいただき、ありがとうございました。」

そう言いながら深々と俺の様な何処の馬の骨か分らんやつに頭下げれるって凄いね。

俺「いえいえ、たまたま通りかっただけですので。」

セバス「王女様の御前で跪かんとは、無礼物！それに王女様に頭を下げさせるとわ！」

えらい剣幕でプルプル震えながら俺に怒鳴るセバスチャン。

もうセバスチャン命名でいいよね？

姫「これ！セバスチャン！我らを助けていただいた御仁に向かって失礼です！」

ほんまにセバスチャンなんや！

それに、この姫さんほんまええ人やわ。その横でぶつぶつ言いながらプルプル震えるセバスチャンはちょいムカつくけど。

## 異世界の車窓から？

俺「もしかしたら、重傷者治せるかもしれないですよ？」

姫「え？本当ですか？」

目を見開いて驚いてる。

姫「でも、ポーションは非常に高価な物なので・・・いいんですか？」

俺「ポーションじゃないですけど、俺の持ってる物で代用できるかなど。」

姫「ポーションの代用品？薬草ですか？」

俺「まあ似たような物です。」

姫「お願いします。費用はお支払いたしますので。」

俺「分かりました。その事については後で要相談と言う事で。早速治療にかかります。」

そう言うのと、俺は重傷者のところに歩いて行ってるんやけど、大丈夫かな・・・あんなに言っただけで無理でしたは辛いしね。

アルマがポーションを飲ませた人は回復したみたいで、ふらつきながらも死亡した仲間達の遺体を集めに行ってる。

残り1人の重傷者はかなりやばい状態。今にも死にそうな感じ。



その重傷者に俺は話しかけた。

俺「俺の声が聞こえるなら1度ゆっくり瞬きしてください。」

その騎士がゆっくり瞬きをしたのを確認して話を続ける。

俺「今から豆を口に入れるので、嚙んで飲みこんでください。」

俺と騎士のやり取りを不安そうな目で見るアルマ。元が美人だし、こんな目をするのを見ると若干こうふ・ゲフン、ゲフン。気の毒だ。

俺の言う事を理解して騎士は俺の入れた豆を嚙み砕いて飲み込んだ。そのとたんに騎士は驚くほど回復した。

俺「どうですか？」

騎士「・・・大丈夫みたいだ・・・今さっきは死にそうだったんだが・・・。」

俺「効いて良かったですね。」

アルマは驚きの余り固まってる。

ふふふ。さすが仙豆！やはり効果バツグン！  
今の俺の顔はドヤ顔やね確実に。

アル「・・・どうなってるんですか？」

俺「何がですか？」

アル「豆を口に入れたら・・・重傷者が一瞬で回復しましたよね？」

頭が混乱しているのが良く分かる。普通豆では回復はせんからね。

俺「あれは俺の一族に伝わる秘伝の回復薬です。」

アル「一族秘伝・・・そんな高価な物を使用していただきありがとうございます。」

腰の悪いばちゃんみたいな角度で頭下げてる。

俺「いえいえ、命より高価な物はないですから。（＃　＼　＃）二ヤ」

決まったＺＥ！今の俺ってかなりイケてるんじゃない？めっちゃかつちよいいやん！

アル「そう言っていたいただきありがとうございます。」

コニシ殿って器の大きな方です・・・（＊？　？＊）

いえいえ、社二病なだけです・・・。

俺「では、俺は連れのいる馬車に戻りますが、一応近くの町まで護衛を兼ねてついていきますね。」

アル「重ね重ねありがとうございます。姫に報告してまいります。」

そう言つと疾風の早さで行っちゃった。

もう魔物は近くに居ないし、馬車に戻ってウリとご飯食べんとあかんわ。

テクテクテク・・・。

ウリ「マスター遅いですね。料理が冷めてしまいます。」

俺「ただいまー！アンド、お待たせー。さ、さ、ご飯食べよう。」

ウリ「はいはい、今出しますから待っててくださいね。」

本当にマスターったらかわいいんだから？（????????）

俺「いただきまーす!。」

むしゃむしゃ。

俺「ほんまウリクルのご飯うまいわ!d） \*d）「

ウリ「御褒めいただきありがとうございます。」

そんなこんな会話してたら近くに生命反応を感知。  
どうもさっきのアルマだな。

急いで馬車を通常版に改造する。

ウリ「マスター、馬を用意しないとおかしいですよ?。」

あ・・・

俺「忘れてた！はい！イリユージョン付き口ボ馬完成。」

と同時にアルマの姿が見え始めた。

アル「先ほどはありがとうございました。」

と言いながら、チラチラウリクルを見てるね。

俺「ウリクル、こちらの方はアグリード王国近衛騎士団副団長 アルマ・コンド・フォルンと申される方で、さっきの襲撃を受けた人達なんだ。」

ウリ「そうでございましたか。私はウリクルと申しまして、マスターのメイドとして仕えさせていただいております。」

さすがウリクル！丁寧かつその無い流れるような動き！キングオブメイド！

アル「私はコニシ殿の紹介にあったアグリード王国近衛騎士団副団長 アルマ・コンド・フォルンと申します。先ほどはコニシ殿の助力により我らは助かりました。」

ウリ「マスターは少々変わり者ですが、良いお方です。」

アル「その様に私も思います。」

俺「で、話の途中で悪いんですけど・・・ここに来たって事は姫さんにせかされて？」

アル「いえ、コニシ殿の用意が終わり次第にこちらに来ていただくように申し遣ったのです。」

俺「分かりました。食事を済ませ次第に向かいます。」

アル「申し訳ありません。」

そう言うときアルマは戻って行ったんやけど・・・それだけの用やつたらお使い誰かに頼めばええのに・・・

アル「あのメイド・・・凄い美人で凄いスタイルだったな・・・コニシ殿はあんな女性が好みなのかな・・・」

本人の知らないところでプラグ成立しかけ。

俺「さっ残りのご飯食べて向かいますか。」

ウリ「はい。」

## 異世界の車窓から？（前書き）

気がつけばアクセス5000PV10000を超えてました。  
皆さんありがとうございます。

## 異世界の車窓から？

「ご飯食べたし、そろそろ行くか。」

俺「ウリ、そろそろ行こうか。」

そう言いながらも動く気配無しの俺。

だって食後はダラダラ横になって牛になりたいやん。

ウリ「かたずけが終われば出発しますよ？」

見兼ねたウリが俺に声を掛ける。

俺「モ〜！」

ウリ「ダメですよ？行くと御返事なさってたでしょ？」

俺「モ〜モ〜」

ウリ「はいはい、後でデザート召し上がっていいので向かいますね？」

俺「モ〜」

恐るべしウリクル・・・俺の牛語を理解しているとは。

ブツブツ言ってる間に到着したみたい。

アル「御足労頂き誠に申し訳ありません。」

俺を見ると開口一番にアルマが勢いよく頭を下げた。

こんなに簡単にぺこぺこしてええんかな？

仮にも王国近衛騎士団副団長やし、後から嫌なフラグ立たんかったらええけど……。　（後日フラグ立ちます。）

俺「いえいえ、元はと言えば俺が言いだした事なので気にしないでください。」

アル「重ね重ね感謝いたします。」

俺「頭を上げてください。」

頭を上げるとアルマが姫のところに案内しだした。

アル「コニシ殿がお見えになられました。」

姫「御足労感謝いたします。こちらで遺体を回収致しましたのでいつでも出発はできます。」

俺「分かりました。では出発したいと思うのですが、次の町までどれくらいですか？」

アル「だいたいですが、2日もあれば到着すると思います。」

俺「王都には伝令を飛ばしたのですか？」



アル「はい、町から王都までの道のりは4日程ですが、新たな護衛が準備を整えてから出発いたしますのでおおよそ5日程度は町に留まる必要があると思います。」

俺「そうですか、では護衛が来るまで私も町に居ましようか？」

姫「本当ですか？」

俺「いいですよ。特に急ぐ用事もないので。連れと観光でもしながらのんびりとしています。」

アル「御言葉に甘えさせていただきましよう姫？」

姫「ええ、そうですね。」

俺「では、向かう町に伝令飛ばして宿の確保と警備兵屯所に集まるように言っただけです。」

アル「警備兵ですか？」

俺「はい、ここはアグリード王国内ですよ。」

アル「そうですが・・・何か？」

俺「王国内領土で襲撃されたんですよ？200程度の襲撃とは言え十分な数での軍事行動とも取れませんか？俺なら次の町での襲撃も考えますけど。」

そう話すと見る見る内に顔が青くなっていつてるね。

アル「向かう町はケイズと言う町で人口がおよそ1000人程度の町なので、警備兵も30人程度しか駐屯していません・・・。」

俺「外壁はありますか？」

アル「高さ3メートル木の外壁程度のはずです・・・。」

俺「うーん・・・念の為に伝令に町を囲う位の外壁用丸太を町の男性総出で用意する様に伝えて、用意出来れば次は今有る外壁の内側にもう一重の内壁を作ります。あと、鉄の板を用意しておく様に伝えてください。内壁用門と外壁用門の外に張りますので。次に女性や子供でもできる仕事として麻袋を大量に作って町の広場に集めてください。俺たちが到着次第に外壁の周囲に堀を作って、出た土を麻袋に詰めます。」

アル「詰めてどうするんですか？」

この世界では土嚢袋に砂・土詰めて壁にする知識ないんです。

俺「積み上げて、最終防衛ラインを作ります。とは言え、これは襲撃が有ると想定した場合なので、無ければ強固な町が出来上がるという案です。」

アル「なるほど・・・でもいつ襲撃があるか分らないのに間に合いますか？」

俺「どうでしょうね・・・完成する前に襲撃される恐れもあります。が、しないよりはましですね。」

姫「では、伝令には私の指令書を持たせます。」

俺「いいんですか？私の案を鵜呑みにして？」

姫「王都に帰れば何かと問題はあるかもしれませんが、帰れなければ意味はありません。」

ピシャっと言い切りましたね。これが王族か。

俺「では、伝令が出発したら俺たちも行きますか。」

周りは慌しく出発に向けて用意をしだし、その後20分程度で出発した。

異世界の車窓から？（後書き）

1メル＝1メートル

1セチ＝1センチ

単純にしてみました。

## 異世界の車窓から？

あれから何事も無く馬車隊は町を目指して進んでいる。

俺「ぽーっち　ぽーっち　ひとりぽーっち　窓の外は異世界」

機嫌良く窓の外を見ながら歌ってる最中に事件は起きた！

ウリ「マスター・・・お歌いの処大変申し上げ難い事態が発生致しました・・・。」

俺「ん？何？」

言いにくそうなウリクルを見ながら何とも言えない間抜けな顔して返事してしまった。

ウリ「この馬車隊の進行速度に合わせますと、食料が不足致します。もってあと1日です。」

俺「そ・・・それは・・・のっぴきならねー事態じゃねーかー！」

歌舞伎調に決めてみました。

ウリ「申し訳ありません・・・。」

ほんとにすまないって顔されたら逆にこっちが罪悪感抱きます・・・。

俺「まあしょうがないんとちゃうか？あちらさんは死体詰めた馬車

に王族の乗る馬車やし、速度出せんやろ。」

まあ予想はしてたんやけどね。死体積んだ馬車の速度なんて誰も分らんやろ。

俺「探知……。おった！食べれるか分らんけど魔物の反応が1km先に有るし、サクツと食料確保しに向かうわ。」

ウリ「申し訳ありません。お気をつけて行ってらっしゃいませ。」

俺は馬車から出ると進行方向から向かい右手に向かって疾走を始めた。

俺「ステルス機能バリバリやし、誰にも気がつかれんやろ。」

にしても……。見渡す限り草原やね。

俺「おついたいた。何か鶏みたいな感じやな。」

その魔物は食用できる魔物で、名前はゲドと言い体長1・2m程の大きさに肉はやはり鶏の様な食感らしい。魔物ランクはDでたいした事はないが、嘴攻撃がヒットすれば安物プレートなら穴空きます。

俺「1・2・3羽もおるし食糧難も解決やね！サクツと狩りますか！」

そう言う俺は風下に移動し、スナイパーライフルを取りだした。

俺「今度はこれを為そつと。」

俺の取りだしたスナイパーライフルはSR-25

俺「サイレント・・・これで銃撃音は聞こえまい・・・ふっふっふっ。」

1発目射撃！頭部に命中！頭が弾け跳んだ！グロ！

とか考えてたら・・・チツ・・・気がついて俺を探してやがるな。無駄にキョロキョロやがって・・・頭部に標準あわへんわ。

しゃーないから胴体狙うか。

2発目命中！

さてさて、お次はつと・・・。逃走してやがる！

俺「俺からは逃れれんよ！」

そう言いながら3発目命中！

立ち上がると回収にし向かいますよ。

回収しながら思っんやけど、4次元ポケット　ってほんまベソリさ  
んやわ。

あ・・・ちゃんと血抜きしてるよ！首も落してね！

でも血抜きつてけっこう時間かかるねんわ。めんどくさいわ。

4次元ポケット　内で血抜きできへんかな？

今度試してみよっと。

そろそろ帰って昼寝でもしよか。

ん・・・・・・・・・・・・・・・・？あれ何の煙・・・・・・・・・・・・・・・・？

あかん！馬車隊の方や！

そう言いながら激走してますよ。

馬車隊に着くと・・・・・・・・2度目の襲撃でつ・・・・・・・・p(、q)ブー

ウリクルに騎士団が戦ってますね。魔物は・・・・・・・・ゴブリン200にオーク10にオークロード1か。

さすがに俺が参戦せんとやばそうやね。

まずは狙撃から入りますか。

先ほど使用したSRを再び取りだすと次々に狙撃を開始し始める。

アリ「コニシ殿はまだ馬車にいらっしゃるのか?!」

ウリ「いいえ、今は戦地外から攻撃準備を始めてる最中です。」

何でウリクルが俺の存在が近くに居るのが分かって？それはね、作った時に護衛も兼ねてるから、俺と離れてもどこに居てるか分る様にソナーみたいなのを組み込みました。



アリ「馬車から出たのに気がつきませんでした・・・。」

ウリ「マスターは隠れんぼが得意ですの。」

アリ「・・・そ・・・そうですか・・・。」

2人は会話しながらちゃんと敵を倒してるよ。ウリクルは本気ではないけどね。

ウリ「マスターの攻撃が始まりました。」

次々に倒れていくゴブリン。数で押してるし、的は外さないね。

でも・・・数多いから狙撃もいいけど負けちゃうかも・・・。

そう考え01式軽対戦車誘導弾を取りだし敵後陣に向かい発射

へ。01 No e     〃〃オリヤアアア〃〃3

発射と同時に01式軽対戦車誘導弾をしまつと、MP5を取りだし歩きながら打ち続ける。

魔物は戦意高いから確実に殺さないと腕無くなっても戦ってくるし、厄介だわ・・・。

まあ戦力は落ちるわけやし、そこんこは騎士団にお掃除してもらいましょ。

オークが巨体を走らせこちらに向かってくる。

ちよいあせつてMP5打ちまくったけど、なかなか死にましえゝん  
ぐ( ;、 )ノあわわ

ええゝい！落ちつけ俺！俺はチートだ！必ず勝つ！

マイブレード取りだし、抜き打ちをする！

オーク1体を切り上げた。

俺「またつまらぬ物を切ってしまった・・・。」

クゝ！これ言うてみたかってん！

俺が感動で浸つてると次のオークの雄たけびで我に返り、次のオークをKILL！

俺が次々に首を落し、胴を切りまくつてると、どうも戦闘は終盤にきてるみたい。

どう見てもやられキャラ的な小ボス　オークロードが現れた。

俺「ウリクル！残りはそちに任せたぞ！俺はこのやられキャラをサクツとKILLわ。」

ウリ「承知いたしました。お氣をつけてくださいませ。」

俺かなりかつちよよくね？

決めたのはええけど、こいつめちゃでかいわ・・・。

3mくらいあるんとかやうか？

これは……フォースの力を信じるバイ！

マイブレードをしまい、ライトセイバーを取りだす。

ブオンと鳴り、白い輝く刀身が現れる。

シャイ「チョーのフォームで対峙し、オークロードの出方を伺う。

ロード「人間よ……剣を引き……やつらを引き渡せば命は助ける……。」

魔物でも上位種はしゃべれるよん。

俺「がつてん承知の介！って言うと思うのか？」

ロード「愚かな人間よ……。」

巨大な棒に釘みたいなのが先にいっぱいいてますね……（もはや木製の巨大なメイスです！）を振りかぶり俺に振り下ろしたかに見えた。

俺「愚かなのは自分の力量と相手の力量を測れぬ者の事よ……。」

（……）キラーン

オークロードの腕は肘から先が無くなっていた。

ロード「グッ……グオ……！！！！！」

狂った様に叫び出し、突っ込んでくるオークロード。もはや戦いになりません。

俺「俺に出会い殺された事を誇りに思え！社二病奥義 横一文字！」

オークロードと交差し、横薙にセイバーを振るうとオークロードの体は上下に分断された。

**異世界の車窓から？（後書き）**

魔物ランクは次回の設定で発表します。

## 異世界の車窓から？兼世界観？

我ながら有り得ない奥義名を繰り出し、余裕のよっちゃんて勝利したけど、騎士団はウリクル居なかったら全滅してたね。

騎士団弱くない？って思う人も居てるやろうけど、1人がどんだけ強くても何百って敵を倒し続けるのって難しいと思うねんな。一般の騎士団員でせいぜい20位倒せば腕上がらんのとちゃうかな。

西洋の剣って重いし。鎧は激重やし。体力持たへんと思う。

そこを攻撃魔法や補助魔法、防御魔法で補助して戦力補強すれば一般的な能力を持つ少人数でもそこそこ戦えるんや思う。

ポーションの件でも分ったと思うけど、回復するには高価なポーション使うか、薬草使うか神官の回復魔法を使うか、究極は自然回復ってのもあるけど、俺はお勧めしない。

この世界は細菌とかって概念ないし、死亡率高いねん。

神官の回復魔法も万能じゃなくて、体力回復する魔法も1人の下級神官がほぼ1日つかって1人治すような感じやし非効率ではある。

一般医療で外科技術もほとんど発達してないしね。

ちなみに、身体強化魔法は特殊魔法の部類に入ってて、使える人はごくごく少数です。

魔法使いでは賢者クラスに騎士などの戦バ力達で言えば剣豪クラスのみ。

でも、剣豪達は瞬動使うし筋力は元々あるし、接近戦では災害クラスの魔物以外にはあまり使用しないみたいやね。

軍は一般的に、接近戦の騎士・中間距離の弓・長距離攻撃及び補助の魔法と別れる。

騎士隊でも国により違つとは若干あるけど、歩兵・騎兵が一般的。最後は荷駄隊。これは物資輸送のみ。

魔法使い自体が少数で、学校に入るか弟子入りするかしか覚える事ができない。

ただ、この世界の人は魔力を全員持っていて、生活で使う様な魔法は国が無料で教えてる。

錬金自体扱える人はもっと少なくて、国お抱えが多い。

魔石は鉱物として扱われる。実際採掘しないと手に入らない。ごく稀に魔物からGETできるが、災害クラスの魔物が持つ。

さて、物語に戻ります。

俺「自分で言うとお義ってハズいし、社二病奥義ってなんやねんって感じやわ。さて、残党狩りでもしますか。」

この後敵はボスを失うと統制が乱れたところを騎士団＋ウリクルに討伐され、俺の残党狩りは遁走するやつを狙撃するだけに終わった。

ウリ「マスター御無事で何よりです。」

俺「あんなやつに遅れはとらんよ。」

アリ「コニシ殿……何ですかあの剣技は?!」

俺「嗜む程度の剣技ですよ。( ^ ^ ) ハハ」

アリ「ゴブリンはランクDオークはCオークロードはBなんですよ

？それに、こんなに数が集まれば討伐レベルはおそらくAですよ？  
！」

俺「そうなんですか？まあ師匠との修行の日々で世間ズレしてるんですよね。」

アリ「そ．．．そうなんですか．．．ウリクル殿も凄まじい剣技でしたね。」

ウリ「マスター直伝です。」

アリ「どうりで2人旅でも安心なはずですね．．．。」

俺「俺より上なんて沢山いますよ。（神しくないけど。）」

アリ「今回の襲撃で私の甘さが分りました。」

ウリ「そうですか？よく指揮できていましたよ？」

俺「そうそう。ところで、重軽傷者は出ましたか？」

そろそろ話題を変えねば妙なフラグ立ちそう。

アリ「重傷者1名に軽傷者4名です。」

俺「じゃあ、治療に向かいますね。」

歩き始めた俺に姫さんが馬車から俺を呼んだから向かう事にした。

俺「何でしょうか？」



姫「御助力ありがとうございます。コニシ殿とウリクル殿がいなければ私達は敵に殺されていたでしょう・・・。」

俺「いやいや、副団長の的確な指揮のおかげですよ。では、そろそろ治療に向かいます。」

治療ってか、仙豆でサクツと治るんやけどね。

サクツと治して、また出発を始める。

魔物の使ってた武器は何気に俺のポケットに全てしまいました。

錬金の材料にするから。

その後は襲撃もなく俺のご飯タイムを邪魔される事もなく無事町に到着し、町の中央にある広場に案内

され、そこには麻袋や丸太が揃っていた。

警備兵隊長らしき人が副団長と話し出した。

隊長「丸太は現在半分程度集まりましたが、いぜん伐採に回せる人数が足りません。」

アリ「そうですか、引き続き資材を集めなさい。」

人数足らんのか。ん？

俺「この町のもギルドありますか？」

アリ「ありますよ。」

俺「ギルドとかに伐採依頼出せばいいんじゃないですか？」

アリ「そうですね、隊長！今現在この町に滞在するギルド員は何名ですか？」

隊長「現在は11名です。ランクはBが1名Cが7名Dが3名です。」

アリ「では伐採の担当者と打ち合わせし、依頼をかけなさい。」

隊長「了解いたしました。」

隊長が走るゝ走るゝ。

俺「じゃあ、俺達はとりあえず宿で休ませてもらいます。」

アリ「会議をしたいので準備が整いしだいに集まってもらえますか？」

俺「はい。（ウリクルに起してもらおつと）」

宿で風呂入りたいしね。

馬車で向かいながら中で鍊金を始める。

俺「一般的な剣と楯、弓に矢を作って町の人に渡すか。」

ウリ「町の人たちに渡すんですか？」

俺「騎士団7名にギルド員11名警備兵30名じゃあ大規模にこられたら全滅するわ。」

ウリ「マスターがいますよ？」

俺「俺が無双したら目をつけられるやん。」

ウリ「ダメですか？」

俺「ダメ。」

ウリ「承知いたしました。では目立たないような行動に変えます。」

俺「そうしてくれると助かる。」

宿の前で馬車を止め、宿で部屋をとり昼寝を始めた。

## 寝起きの運動

夢の中で家族の夢を見た。

子供と公園で遊んで、一緒に風呂に入り、一緒に寝た。

目が覚めて泣きながら寝てたのが分った。

ウリクルはそんな俺に声を掛けるわけでもなく見守っていてくれた。

俺「子供の夢を見てん……。」

ウリ「マスター……私はまだマスターにかける言葉が見つかりません。」

俺「いや、いいねん……。」

顔を洗い進捗状況をウリクルに確認した。

ウリ「丸太はギルド員に依頼を出した事により伐採スピードが上がっています。あと1日もあれば揃うと思われます。」

俺「うん、順調やね。麻袋とかは？」

ウリ「麻は材料が足らず、急ピッチで生産しています。商人からも購入していますが麻袋は後2日は必要です。」

俺「そうか……俺が少しは手伝った方がええやろね……ほい！」

麻袋200作りましたよ。簡単やね錬成って。

俺「これを持って行ってくれるか？ついでに、今の外壁の周りに幅3メル深さ5メルの溝を掘る指示を出しといて。その時の土を麻袋に入れて広場に集めといて。どこに積むかは後で話し合っし。」

ウリ「承知いたしました。では、服などはこのテーブルに御用意致しましたので、御用意が整いましたら広場まで御足労お願いします。」

ウリクルが部屋を出ると俺は夢を思い出し、気分はブルーに変わる。

ウリ「副団長様、ここにマスターから麻袋をお渡しするよう承っております。」

アリ「申し訳ありません。事が終わりましたらきちんと費用はお支払致しますので。」

ウリ「マスターからその必要はないとの事です。」

アリ「そう言う訳にはいきません。」

姫「そうです。きちんとお支払しなければ示しがつきません。」

ウリ「マスターにお伝えしておきます。」

おおよそ30分後に俺が到着するが、細かい指示などはアルマが出しているのでテキパキと作業は進んでいた。

俺「順調みたいですな。」

アル「はい、後は細かい打ち合わせは必要ですが概ね順調です。」

俺「この町で一番造りの頑丈な建物はどこですか？」

町長「大きさで言えば私の家ですが、小さくても問題ないのであればギルドです。」

俺「ん．．．．１０００人規模は流石に無理やろうな．．．。」

町長「はい．．．。」

俺「町長宅は何人位避難できますか？」

町長「多くて１５０人程です。」

俺「ギルドは？」

ギルド支部長「１００人程です。」

俺「２５０人か．．．戦力の分散は避けたいなあ．．．。」

俺「町長宅見せてもらえますか？」

俺・アルマ・ウリクル・町長の４人で向かった。

家と言うか豪邸ですね．．．。２階建てで貴族の家みたいな感じで木造ではなく石がメインでできてるが、無骨な感じではなく芸術的なデザインである。

俺「立派な家ですね。木造ではなさそうだし、火を付けられても大丈夫そうだし、家から門までのスペースも十分ですし、ここを最終防衛拠点にした方がいいですね。」

アル「そうですね、この規模なら150人程度展開し、防衛できそうですね。」

俺「町の人達にも防衛線参加してもらわないとダメですね。この町にも狩人はいますよね？」

町長「はい、数は少ないですが。5人です。」

俺「その人たちは弓隊に入ってもらって、解体屋とかの人にも参加してもらいましょう。」

次々に町の人達の参加部隊を仮編成し、防衛構想を練る。

俺「ギルドには依頼として発注し、町の女性や子供、お年寄りを護衛して近い町に避難してもらいましょう。」

ウリ「では、ギルドに依頼を発注してまいります。」

俺「うん、ついでにBランクの人は町に残る様に伝えて。」

ウリ「承知いたしました。」

アル「では、準備の指揮に戻ります。」

俺「じゃあ、俺は土掘り手伝いに行きます。」

それぞれが別れ、作業を進める。

俺「考えたくない時は体を酷使するに限る。」

もう何袋詰めたかわからない。でも、そうしないと今は精神が持たない気がする。



## 寝起きの運動？

あれからどれだけの時間が過ぎたのか分らないが、一緒に土木作業をしてる町の人に声を掛けられ我に返った。

俺の周りには100を超える土嚢が出来上がっていて、それだけ時間を浪費していた事が分る。

俺「そちらは順調ですか？」

町民A「順調と言うか・・・おたくのペースが速くて、それに比べればまだまだですよ・・・。」

俺「えーつと・・・まあ気にしないでください。」

町民「今から少し休憩に入りますよ？」

そう言われ皆と休憩しながら話を聞く事にした。

俺「この町の名産とかって何ですか？」

町民A「名産はリゴンですね。リゴン酒とかも名産です。」

リゴンとは字のごとくリンゴです・・・。すいません手を抜きました・・・。

町民B「王都の商人からも頻繁に買い付けに来ますよ。」

俺「それは凄いですね。この事が終われば皆で飲み明かしたいです

ね。」

町民A「そうしましょう。町長に言って祭りにしましょう!」

町民にとってはこんな出来事は不安でしかたない。でも、生きる為に頑張るしかない。

これくらいの楽しみがないと気が持たないんだろう。そして、生きて家族に会う為に。

俺もいつか家族に会えるといいけど・・・絶望的やしね・・・向こうの世界で死んでるし・・・

俺「そろそろ続きを始めましょうか!」

町民A「はい。」

そして何事もなく今日は終わった。

朝目が覚めると俺の好きな卵焼きに白ごはんにめざしが用意されていた。

もちろんウリクルが作ってくれてる。

俺「今日は和食やね。俺の好きな朝ごはんや」

嬉しくなって次々に口にほりこんでいく。

ウリ「慌てなくてもおかわりはありますよ。」

まるで母親のような微笑みで俺を見守ってくれてる。

昨日の今日やし、気を使ってくれてるんやろな。

俺「ウリクル・・・ありがと。」

ウリ「どういたしまして。マスターの笑顔が一番です。」

ありがとうウリクル。この世界に来て初めての相棒で、俺の心の支えにもなってる。

彼女が人間なら間違いなく恋人になってると思う。たぶん・・・。

俺「おかわり〜」

でも御飯でご機嫌な俺って・・・。

コンコン。

アル「コニシ殿御目覚めですか？」

俺「起きてますよ。」

アル「本日の打ち合わせをしたいのですが？」

俺「入ってください。」

今日もアルマは美人です。このボインを・・・ゲフンゲフン。

アル「私のプレートアーマーがどうかしましたか？」

俺の目線バレてる！い・いや・まだ大丈夫だ！

俺「い・いえ・連戦でアーマーも傷んでそうなので直しましょうか？」

アル「え？できるんですか？」

俺「ええ、できますよ。今からやれば昼にはできると思うので昼御飯食べる時にでも渡します。」

アル「お願いしてもいいですか？」

そう言いながらアルマはプレートアーマーを脱ぎだした……。凄いボディー！

鎧で分らなかったけど……。巨乳やん！でも残念なことにサラシかなにかで押えてるからはみ出てる。これはこれで凄い眺め！！

ウリ「マスター……。」

ウリクルがそつとハンカチを渡してくる。俺鼻血出たみたい……。

気がきくよねウリクルって！でも視線が痛い……。

俺「では預かりますね。」

アル「ではお願い致します。」

アルマが部屋を出て思ったけど……打ち合わせ……。まったくいいか！良い物見れたし！

俺「でも、普通に直すのもつまらん……。能力値上げといたろ。」

俺の能力使えば簡単じゃ！ってはい！

俺「どうよ！ウリクル！見た目はノーマル！しかーし！！能力はUP済み！これぞ羊の皮を被った狼！のび太の皮を被ったスネ夫！ボールの皮を被ったジム！」

ウリ「段々と意味が……。」

俺「まあええやんええやん。これの能力は既存の能力に加え耐魔法！但し、四大元素のみやけど。加え！重量軽減！ってか材質チタンに変えたしね。」

ウリ「マスターは懲り症ですね……。」

俺「ふふふ、ただでは起きんよ。」

ウリ「……。」

俺「視線が痛いですって……。って町の人用の防具も少しは作らないとあかな。これは重量軽減程度にしとこ。」

はい！つとできました50組。

俺「剣はショートソード20に楯20は作ってるし……。ロングソード10作って……。弓を10くらい作ればええかな。余れば倉庫

入れればええし。」

なんやかんや言いながらも普通の武器は作りませんでした（

；

）アハハ：

そして昼にアルマとお昼食べるねんけど、何で姫さんも同席？？

姫「私も御一緒でも宜しいでしょうか？」

そう言われてNOとは言えない日本人です。

俺「いいですよ、皆で食べた方がおいしいですし。」

アル「すみません・・・。」

アイコンタクトで返事しました（；・ー・） フッ

俺「あつ・・・ウリクルお願い。」

ウリ「マスターにお預けしたアーマーをお返し致します。」

アル「これ・・・軽いですね・・・。それに・・・この宝石は・・・。  
・？」

俺「ああ・・・それは耐魔法の術式を刻んだ魔法石ですよ。あと、重量軽減・材質硬化の術式刻んどきました。（嘘だけどね。）」

アル「魔法石？？重量軽減・材質硬化の術式？？何ですかそれは？」

俺「俺オ리지ナルです！故に、アルマさん専用でこの世にオンリー

ワンです！ちなみに、製作方法は企業秘密ですので聞いても答えません。」

この世界には重量軽減する魔法は存在しないし、魔法石は無くても魔法石しかありません。魔法石と魔石の違いは魔石は初めから魔力の籠ってる物、魔法石は宝石などに術者自らが魔法の術式を刻み魔力を込めるって違いです。

アルマと姫はポカーンとしてます。そりゃそうやね、今までどんな高名な賢者でもできないことをして、その恩恵を受けるんやし。

俺「あと、姫さんにもこのネックレスを。」

そう言つてポケットから水色の魔法石を嵌めたのを作りました。

魔法石の周りを天使が支えるデザイン。

俺「これの効果は耐魔法と体力回復。」

姫「コ・・・コニシ殿・・・いくら非常事態とは言え・・・国宝級の装備を軽く渡されても・・・国庫が・・・。」

アル「とても・・・普通にはお支払できない金額では・・・。」

俺「ん・・・この事が終わればお願いしたい事も有るし、今回の報酬も含めてお金はいいですよ。」

姫「お・・・お願いですか・・・？」

どんな無茶なお願いされるかドキドキしてるな？

俺「はい、ムミ砂漠ってアグリード王国領土ですよな？」

姫「はい、でも砂漠なので領地とは言え人も住めない状況なので・・  
」

俺「ムミ砂漠全部貰えませんか？」

姫「へ？」

おつ変な返事しよった。

姫「ムミ砂漠ですか？あそこには人は住めませんよ？魔物もいますよ？」

俺「いいんですよ、俺の色々な実験場にしたいんで（嘘だけどね。もう家建てちゃってるし。）」

姫「砂漠なので問題は無いとは思いますが・・。」

俺「じゃあ、契約完了って事で食事始めません？」

食事を楽しむと（俺ただけだ。）後は食後の運動！昨日と違って今日は伐採した丸太を外壁にする作業が待ってます！

内堀は6割程度は作ったし、できたところから外壁作らんと間に合うか分らんからね。

今は伐採も終わって、土嚢運搬組み・堀作り組み・外壁作り組みと別れてる。



明日朝一からお年寄りから順に移動を始める事になってる。

では、そろそろ始めますか！

**寝起きの運動？&作戦会議（前書き）**

PV10000ユニーク2000 ありがとうございます！

## 寝起きの運動？&作戦会議

今俺は町から離れ、1人小高い丘の上で狙撃してます。

――回想――

さーで、昼も食べたしチャキチャキ作業進めるか！って……ん？  
探知に魔物が引っ掛かった……数は10か……小隊だな……。

まあ今の状況（未完成）見られて攻め込まれてもヤゝバババイ！

時間稼ぎするか。

俺「ウリクル、探知に魔物の小隊引っ掛かったから時間稼ぎしてくるわ。」

ウリ「承知いたしました。では皆さんに作業を急ぐ様に督促いたします。」

ぼつぼつ小走りで行きますか。

アリ「コニシ殿、急がれてどうしたのですか？」

俺「ああ、魔物の斥候か通常偵察か分らないですが、小隊みたいな

のが近くまで来るので時間稼ぎに行ってきます。作業は早めてもらった方がよさそうです。」

小走り（ （ （ （ （ （ （ （ （ （ （ ）っ ブーン

町を出たらちよいスピード早めてと・・ Y Y (、〇、)

小高い丘につきました。

ここまでが回想（短いって？まあ細かく書いてもじゃあないし。）

まずは、煙幕張つてと……。ポンポンポンっという音と共に煙幕弾3発発射する。

ゴブ  
1  
「ゴブ？」

「ゴム 2 「ゴブゴブ?」

ゴブ  
3  
「ゴブ  
ゴブ  
ゴブ  
ゴブ」?

ゴブ4「五分五分？」

ゴブ 5「5部5部？」

ゴブ 6 「五部五部？」

ゴブ 7「5分5分？」

ゴブ8「5部五分？」

ゴブ9「五部5分？」

ゴブ10「ごぶごぶ？」

え？日本語？エエエエエエエエエエ（。。）エエエエエエエエ  
エエ

てい！気持ち悪いしサクツと手榴弾を20個投げて様子見よ 丘  
。（）ノ。。ティツ

煙幕が晴れるとそこは海だった・・・噓

見事に壊滅！でも、生きてるやつもいてるみたいやな。

って言うても重傷っぽいから動けないみたいやけど。

死体とか生きてるやつも含めて錬金して穴掘って、丸ごと埋めとき  
ました。

ついでに、こいつらの来てる方向も分ったし、トラップ多数設置！

落とし穴！に落とし穴に落とし穴！その数10000！

今バカにしてる？ただの落とし穴って思ってる？

俺やで？そんな普通の落とし穴にするはずないやん！

穴の中はサラダ油だよ！グリーンだよ！

穴の深さは5mで直径10m！ふふふっ普通ではないのだよ（。  
＊）

これでかなり時間稼ぎができるやろ。あっこれビデオ撮って後で面白ネタで暇潰しできそうやし、ビデオセットして録画しとこつと。

さて帰りますか！（。 。 ） モヒョヒョヒョヒョ

町に帰ると、皆が危機迫った顔で穴掘ったり丸太で外壁作ってるの見たら、正直面白い顔してて笑える。

これを見ながら酒でも飲みたいですわ（。 、 ） ノ ニタリ

俺「ただいま〜！」

ウリ「ご苦労様です。」

俺「ゴブリン10程度は食後の運動にもならんかったわ。でも、本隊も斥候部隊が戻らんのやったら全滅したと判断して動くかもしれんね。」

アル「それはいつだと思われませんか？」

俺「早くて明日、遅くて明後日と思いますよ。まあどんな規模かにもよるんですけど、小規模ではなさそうですね。」

アル「分るのですか？」

俺「今回の指揮官がまともなやつなら戦力の1/10は堕し過ぎでしょ？」

アル「そうですね、戦闘斥候でもない限りは本隊1000はいると思います。」

俺「だいたい1000〜2000じゃないですかね？」

アル「最低でも1000……。私たちの戦力は騎士団7名、Bランクギルド員1名、警備隊30名、義勇兵200しかいません……。」

俺「じゃあ、まずは作戦概要を打ち合わせしたいので警備隊長・町長・ギルド長・義勇兵代表に姫さんにアルマさんに俺、ウリクルのメンバーで打ち合わせしますがいいですか？」

アル「はい、問題ありません。」

ウリ「では、すぐにも皆さんをお呼び致します。」

俺「じゃあ、来るまでティータイム」

優雅な一時を過ごしますよ。紳士ですから。

あえてもう一度言います。私は浪速の紳士です。

――1時間後――

場所はギルド2階の会議室に皆に集まってもらった。

俺「では皆さんお揃いのようなので、早速作戦概要及び隊分けを打ち合わせしますね。」

皆真剣な眼差しで俺を見る。いや、照れるやん

俺「まず、予想される敵はおおよそ1000以上だと思われます。」

ザワザワ（　　）ヒソ（　　）ヒソ（　　）

俺「で、ですね、まずは敵が町に近ずいたら弓隊は櫓から弓を放ってください。ひたすら。」

俺「弓隊は2人で1組とし、1組を10組で1班とします。弓隊は全員で60名なので3班できるわけです。その1班に1人班長を置き、班長の上には3班長を纏める隊長を1名置きます。班長は上官の指示を、組は班長の指示に従ってください。班長は基本的には警備隊に担当してもらいます。弓を放つ時は1組の中で1名、放つと次の1名が放つと言った具合に途切れなく弓を放ち敵の近ずかせる数を削ります。」

アル「なるほど・・・興味深い戦略ですね・・・。」

この世界の戦略や戦術は稚拙な物が多く、悪く言えば正面衝突。映画のロードオブザリングの軍勢同士の戦いみたいな感じですね。

我こそは〜とか言わないけど、それに近い物はある。一騎討ちとか

1人の剣豪の力では何千、何万もの軍勢同士の勝敗を決めることなんてできません。

でも、勝機を掴むことはできます。今回は俺が本気を出せば楽勝だけど、そんな姿を見せれば撃退した時は喜ばれるが、時間が経てば



警戒される存在として排除されても嫌やしね。

俺「敵が内堀に入ったら弓隊は村長邸に向かって、屋根上にて配置してください。」

～次話に続く～

## 作戦会議？

俺「そこで弓隊は攻撃態勢を維持し、待機してもらいます。ちなみに、班長の次に指揮権を持つのは副班長で、これも警備隊を配置します。」

皆「うんうん頷いてるけど、こんな説明で大丈夫かな？心配してもしやあないし、続けよ。」

俺「次は歩兵戦力に關してですが、長槍部隊を新たに配備します。これは長めの槍で戦う部隊です。主に義勇兵で構成します。義勇兵は接近戦をあまり経験していないので、ともに当たると悪戯に兵を失います。得物は後で配備しますので訓練してください。構成ですが、10人1組として16組作ります。1組に組長1名、4組に1班長1副班長、4班長の統括に1隊長1副隊長とします。主な戦いは城壁を超えようとする魔物を上から突いてください。破られそうになったら町長宅に移動とします。次に通常歩兵ですが、警備隊は残り16名となるのですが、皆さんには長槍部隊が引いた後に油瓶を城壁から投げてもらって火を付けてください。着火したら町長宅に移動してください。騎士団は姫さんの護衛に1名、残りは魔法で攻撃に参加してもらいます。」

アル「分りましたが、簡単に外壁を放棄していいのでしょうか？」

御懸念はごもつとも。

俺「この作戦で1日は稼げますので大丈夫ですよ。避難経路は俺が地図に記載するので、その道を使ってほしいですよ、トラップ設置したいので。」

アル「トラップですか？」

俺「この初戦で殲滅できる数は多くて400少なくともその半分はいけると思うんですけど、まだまだ形成不利なんで、トラップで100〜200は振るいに掛けたいなと。（道中に俺が油谷さんトラップ仕掛けてるの言えないしね。でも、油谷印のサラダ油は取れないし、よく火が着くんですわ。）」

アル「でも多くて600、少なくともまだ300は残ってますよ？大丈夫でしょうか・・・？」

俺「大丈夫です、町の建屋に多少の被害は勘弁してもらえますか？」

町長「それは仕方ありません。」

俺「すみません。」

これで Hey、ウェイター！ゴブリン肉ウエルダンで！作戦が完全に認証された！（誰もこんな作戦名とは知りません。）

とは言え、俺の力を1万分の1に抑えて、ウリクルもハッスルさせない方向で撃退するには通常難しいが！しかし！俺には秘密兵器を用意している！敵が町に侵入したと同時に秘密兵器は発動する！

俺「それに、秘密兵器を用意してますんで。」

アル「秘密兵器？」

俺「はい、内容はまだ話せませんので期待してください。」

アル「・・・はい・・・。」

俺「では、簡単ではありますがこれで終わりにして、各自自分の隊を掌握してください。」

残り3日頑張つて防衛すれば援軍来るし、大丈夫やろ！

**作戦会議？&前哨戦？（前書き）**

感想ありがとうございました。頑張ります！

## 作戦会議？&前哨戦？

歯の間に挟まった物が取れそうで取れない時ってない？

時々あるねん。

別にストーリーに関係ない話だったけど・・・。

で、そんなどうでもいい事考えながら俺は今お姫さん相手に作戦概要を伝えたら外壁、内壁放棄するのが早いだとか、秘密兵器はなんじゃらほいとか突っ込まれてます。話が長いので脳内逃避してましたが、お姫さんの俺を呼ぶ声で現実に召喚されちゃいました。

俺「何でしょうか？」

姫「何でしょうかではなく・・・作戦的にどうかと・・・。」

俺「何度も申し上げてますが、現実的に考えて外壁・内壁維持しつつ敵を避けるには兵が足りないばかりか、錬度も足りてないんですよ？そんな状態で維持するよりかは、破られそうになれば兵の損失が出る前にさっさと次の防衛ラインに下がった方がいいんですよ。次と言っても最終防衛ラインですけどね。」

ちよっとうんざりしながら説明してますよ。お姫さんに限らず、この世界って軍略無さ過ぎ。

完全に無い訳じゃないみたいだけど、一部の軍国の軍師が使うみたいで向かうとこ敵無し状態。

そりゃそうやわね。こんな稚拙な軍略しかできないのならちよつと頭廻るやつにすればいいカモ。

姫「それが問題では？と言っているのです！」

俺「はぁ……。お姫さん、村長宅を防衛ラインとし、兵を展開するのが精一杯なんですよ。お姫さんの言う事を現実にするなら警備兵ではなく、正規の兵1000は最低必要です。もしくは、騎士800でもいいですけど。」

姫「……。わかりました……。」

これで引いてくれるかな？

姫「では、護衛の兵はいりません。その代わりに武器をください。」

俺「へ？」

姫「だから武器をください。自分の身は自分で守ります。」

アル「いけません！」

俺「武器は渡せるけど、扱える??。」

姫「必要最低限度は……。」

俺「アルマどうなんです?。」

アル「まあゴブリンと1対1ならなんとか勝てると思いますが……。」

俺「んゝ・・・。じゃあ、何個かアイテム渡すので、それ装備してくれるならショートソードとレザーアーマー渡します。」

アル「レザーアーマー・・・。それって防御力弱くないですか？」

俺「普通のならね。俺が渡すのは普通じゃないし。」

姫・アル「普通じゃない？」

俺「内側に術式刻んでて、防御力UPと硬化。それだけでプレートアーマーと比べて遜色ないくらいの防御力だし、元々軽いからお姫さんでも動きに制限される事ないから逃げたい時にダッシュできる。それとオマケで特別な術式刻んでて、空気中のマナを取りこんで鎧に纏わせる事ができる。」

そんな装備いつ作ったかって？作ってねゝよ！後から作るんだよ！

姫「それってどう言った効果があるのでしょうか？」

俺「ん？纏わるやつ？えっと、不用意に鎧に触れるもの・・・言えば剣とか手とかなんですけどね、当たればマナの衝撃で弾かれます。」

姫「それって・・・凄くないですか？！」

アル「凄いです・・・。聞いた事も無いですね・・・。」

俺「ん？そう？（やばい・・・やり過ぎ？）まあとにかくそれを使えるのは1回だけだから気を付けて。」



アル「1回だけですか？」

俺「1回使えば次に使えるのは1日過ぎてから。そうじゃないと空気中にマナが有るって言っても微量だからね。チャージに時間掛るんですよ。」

アル「なるほど。」

俺「じゃあ、作戦の続きですが、キーポイントは俺とウリクルです。俺たちは独立部隊として自由に動かせてもらいます。」

アル「指揮をしてくれないんですか？」

俺「アルマがいるし、大丈夫ですよ。」

アル「はあ……。分りました。」

俺「んで、続きですけど、怪我人の中でも軽傷者には松明でもいいんでのに投げてほしいんですよね。」

アル「それは大丈夫だと思いますが、松明ですか？」

俺「まあ詳しい事は聞くより見た方がいいんで、そんな時に分りますよ。」

その時、慌しく足音と声が聞こえ兵が入って来た。

兵「会議中に申し訳ありません。今物見からの報告で敵影を発見致しました！」

俺「思ったより早いな……。では、配置に着きましょう。」

あのトラップでどれだけ振るえたかこれで分るな。

俺は走って物見台に上り敵を見据えた。

そこに見えたのは（俺視力5・0まであるみたい。）ウォーウルフの背に乗ったゴブリン150。その後ろにはまだ敵が見えないところを見ると、ウォーウルフの鼻で油を察知したと考えるべきだね。次からはファブとこつと。

ぶつぶつ言ってる間に敵は300mの地点まで近づいてきてる。

アル「弓隊構え！私の合図で放て！以後は隊長の指示に従え！」

おお！さすが副団長！様になってますな。

アル「放て！」

空に弓が放たれる瞬間、ひゅんひゅんと言う音と共に弓が空を舞っている。

その舞に敵は頭を貫かれ、足を折り、腕が裂け、血を落す。

弓隊による2段射は少数ながらも確実に敵の数を削っていく。

盾を持つゴブリンも少数居たが、騎乗してるウォーウルフは丸腰。

敵数150と言えども、実質300と変わらない。

ゴブリンはいいとしてもウォールフは確実に数を減らしたい。あつらの牙は人間の骨を噛み砕く。

ゴブリンは弱いが数が集まるとやっかいだ。

そんな組み合わせって災厄だ。

俺はいいけど、義勇兵やなくなつた騎士団には重荷以外何者でもない。

M P 5で乱射すれば少しは数が減るんだけど、そんな武器目の前で見せないしね。

なので、今は俺も弓を放ってます。レラスなりに連射！

敵をどんどん削ってます。しかし！ここは流石に寡兵・・・少し外壁に取り付きましたね・・・。

そうなれば槍でアラちゃんばりにツンツンしちゃいます。

ツンツンされたゴブリンは絶命するんだけどね。でも声が何度聞いても嫌な声してるんだわ。

どんな声かって？

黒板に爪立てて引つ掻いた時の音にクリソツ。

そんな声に我慢するのもめんどうなので銃を乱射したい気持ちを抑えるの大変でした。

2時間ほどで敵を殲滅したんだけど、その間後衛は見えないところだと油谷さんに手こずってますな。

まあこれで弓隊も少しは実戦経験して錬度も雀の涙ほど上がったやろし、敵の数も150→300は減らせれたし、良しとしますか！

## 前哨戦？（前書き）

アクセス凄くて正直驚いています。こんな稚拙な文ですが楽しめる方は楽しんでください。

## 前哨戦？

先行部隊との戦いが終わり、後衛が到着するまでに魔物の回収を行う部隊と使える矢を回収する部隊、後は外壁の補修部隊と別れて作業を始めた。

死にきれてない魔物は槍で突き生命活動を強制的に停止させていく。

ゴブリンは1箇所を集めて証拠部位を回収し、武器で使えそうなものは使い、使えない物は新しく作る武器や農具の素材にする。

ウオーウルフは皮を剥ぎ、牙を抜き、肉は保存用に燻製にする。ちよつと癖は有るが食用になる。ハーブで匂いを取るとかつて事は無いし、香辛料も無い。味気無い単調な味付けが一般的。

塩は高価で、海沿いの人達は海水を使って料理したりすることで塩分を補給しているが、内陸部は岩塩を使う。

でも岩塩は元々山岳地帯で産出される為、運送費で高額になる。

話は戻るが、この戦いでどれだけの被害が出るかは分らないが、生き残れたとしても全員ではないだろう。

だとしても、生き残った者は被害の出る町の復興や、遺族への手当てなどで大変な事後処理が待っている。

だからこそ、この戦いでの戦利品は貴重な財源になる。

俺が手を貸せばこの町規模なら5分と掛らず元通りにすることがで

きる。でも、それをすれば俺は化け物認定１級やろ？だから支障が無い程度の手助けしかない。

俺は先ほど説明した塩をこの町にプレゼントしようかと思ってる。

この町の近くには大きな森が有り、その奥にある岩場の周辺に岩塩が有るのが探知で分ったからだ。

採掘は自分たちでもらうが、それを収入に当てれば遺族や町の復興に当てても余る程の財源ができるし、採掘の為の労働力を他方に依頼し人が訪れる。そして人が増えれ、岩塩が産出されるとなれば商人達が頻繁に訪れる様になる。お金も物も動けば経済活動は活発になり町に住む人々も裕福になり町の規模も大きくなるやろ。

まあ町の復興話はここまでにして、ずいぶんと作業が進んだみたいでは？終わりにかけている。

まあ作業が終われば皆に休憩してもらって、次の戦いに備えてもらおう。

俺「作業が終わった者は手の足りないところで作業を手伝ってください。作業を早く終わらせて休憩しましょう。」

俺「ウリクルちょっと後衛がどうなったか見てくるわ。」

ウリ「了解致します。私は引き続き今の作業を続けます。」

俺「うん、たのんだよ。」

油谷さんがどうなったか確認しときたいねんな。あと、どんな敵か

見ときたいし。

町から俺が確認できない程度離れると、一気にスピード上げ走る。

油谷トラップまで3分と掛らないが、それは俺が早いだけ。

小高い丘に着く前にステルスモードに切り替える。

俺「おおー、苦戦してますな〜。」

小型の魔物はなかなか出れずに大型の魔物に助けてもらってるようだが、その大型の魔物も数が多いわけではないので、苦戦中（  
艸、ムププ

あと半日は大丈夫そうや。

今火を着けたら終わりそうだが、それをやっちゃ〜おしめ〜よ（  
、o）ニコッ

youtubeにこのコント（魔物はコントしないけどね）をアップしたい！

な〜んて考えてたら、どう考えても別格の魔物が居た。

脳内知識によると・・・これは魔物じゃなくて魔人やわ・・・。

こいつが指揮してたんか。どうりで・・・魔物の混合部隊があるはずやわ・・・。

これはちよいやばいかもな（；・ー・、） フッ



とりあえず、帰って対策練り直しやね。

立ち上がり帰ろうとする時に魔人と目が合った……。

俺ステルスモードなんやけど……。

すごい勢いでやつが来る！俺逃げる！

何でかって？なんだかややこしそうだし……。

って思ってたら後ろから魔法で攻撃してきたよ！

最早ステルスモード意味無し……。

本気で逃げよかな……。

まあでも、この魔人の實力知るのにいい機会かも。

立ち止りステルスモードを解除する。

魔人「ほお……観念したか？」

俺「いやいや、おたくの必死な思いが俺に通じただけで。」

魔人「減らず口を！」

さすが魔人と言ったところか、武器を召喚し切り付けてくる。

まあ俺には軌道も見えてるし簡単に避けれるんやけどね。

魔人「人間にしてはなかなかやるではないか。」

俺「そう？俺レベルはまだまだ居てるけど？（嘘だけど）」

魔人「これでどうだ？」

ニヤニヤしながら武器に魔力を通して炎剣っぽいのにしてる。

何かそのニヤニヤが気に入くわん！俺もライトセイバーで！

ブオンと鳴らせながらライトセイバーが光を放つ。

魔人「なっ！何だその剣は！」

俺「俺専用の武器。」

まあこの世に無いし、見たら焦るわな。

逆ニヤニヤしてやったZE！

魔人「お前を殺してその剣を頂く！」

そう言うや早し！剣速が先ほどとは比べ物にならない程早くなる。

だが！だがだが！ライトセイバーに当たると魔人の剣は真っ2つに切れた。

魔人「な……」

ちなみに俺は1歩も動いてませんよ。

俺「弱いな魔人とは（．．）ニヤニヤ」

魔人「調子に乗るな！」

いきなり火の上級魔法ブっぱなしやがった！

俺「ダムド！」

ふふふついきなり使っちゃったZE！

爆裂系魔法ダムド（バスター 参照してね）で相殺する。

魔人「なんなんだ！その魔法は！」

俺「ナルシストな魔法使いの魔法だよ。そろそろめんどくさくなってきたし帰るから（．．．） モヒョヒョヒョヒョ」

隙を突いて逃走！

魔人「あんなやつが居てとなると慎重にせねばな．．．」

こうして魔人とのファーストコンタクトは無事終了。

町に帰ると俺はウリクルにアルマとお姫さんを呼ぶように頼んだ。

アル「敵はどうでしたか？」

俺「魔人がいた。」

姫・アル「魔人！」

俺「けん制しといたし少しは時間稼げますよ。」

アル「魔人は最低でもSSS級指定です……。魔人1人でこの規模の町は全滅です……。」

俺「まあ来たら俺が相手して時間稼ぎますよ。」

ウリ「では、マスターに魔人の対処をしていただき、私達はその他の魔物を討伐すればよろしいでしょうか？」

俺「そうしてくれると助かるね。」

顔が青い2人は置いて、話をウリクルと2人で決めちゃいました。

まあ何とかなるやろ！

## 本隊来襲

大胆告白（魔人についての報告）が終わり9時間後、敵本隊が隊列を整え進軍して来た。

但し、油まみれではある。

その貴重な9時間は町の被害修復などに当てられ、各要人は作戦指導や作戦の微調整に奔走していた。

但し、1名を除くが事になるが・・・。

その間、我らが主人公は魔人との戦いで疲れたという名目の元、さぼって寝ていた・・・。

だが、そのさぼりも敵本隊来襲により妨げられる事になるのだが・・・。

俺「せつかく体力回復してたのに、まったく来るの早過ぎや。」

ウリ「マスター・・・もう9時間は寝てましたよ?」

俺「あと24時間はダラダラしてたかったわ・・・。」

ウリ「・・・。」

俺「い・・・痛い・・・視線が・・・。」

ウリ「マスター、早く迎撃態勢を整えましょう・・・。」

俺「だね！そうやね！すぐかかろう！今すぐかかろう！」

ウリ「では、私は町の裏側から抜け出すので、マスターは東側からお願い致します。」

俺「ラ ジャー！ブラジャー！」

ウリ「無駄口を叩く暇はありません。」

俺「そうですね・・・。」

俺とウリクルは町の外から狙撃をする事になってるのだが、重点狙撃対象は指揮官クラス？まあオークロードの事やけどね。

偵察した時に分ったんやが、ゴブリン部隊にオーク部隊、オークロードが指揮官らしく、その統括に魔人って感じやったから、オークロード狙撃してしまえばバラバラの動きになって倒しやすそう。

オークロードを狙撃した後は、徐々に町に引きつつ狙撃対象を外壁に取り付いた魔物に変えて撤収する寸法。

どの時点で魔人が前線に出て来るか分らんけど、そんな時はそんな時で考えまっさ。

アルマは細かな指揮を出し、騎士団は手足の如くその指示を伝令していく。

まあ軍師才能が有っても、実戦で指揮が初めてやしこの程度の作戦立案程度に留めておきたい。

また戦後にフラグ乱立しそうなので、それは能力全開にて戦うより抑え気味で戦い少しでも面倒なフラグを回避したい願望あります。

とは言え、砂漠欲しいからある程度は活躍して国王に認めさせないとダメやし働きますよ。

正式に認められたら、おそらく貴族になるんだろうけど、それは別に構わない。

ゆくゆくは独立する予定やし。

領土が砂漠しかない貴族に王国も求める物も少ないやろうしね。

この砂漠の先に有るのは深い森で、その先は友好国である事を考えると責務も少ないと思う。

名前だけの貴族。

他の貴族からすれば、妬むネタはゼロ。逆に憐れむやろうね。

でも、俺がオアシスを作ったのは知らないし、そこを拠点に経済発展させる事も可能だと思う。

他人の目を考えると俺の能力を使って開発はオアシス周辺に限られる。

でも、俺が考える経済発展は自国の商品を行商で売り歩く事から考  
えてる。

まあ俺の妄想話はおいおい詳しく話すととして、敵さんが陣を敷いたみたいやね。

そろそろ準備に取り掛かりますか。



**籠城？（前書き）**

皆さん、明けましておめでとございます。  
本年もよろしくお願い致します。

籠城？

折角の睡眠を邪魔されたので、しょうがなく物見櫓に登り敵陣を確認してるが敵はおおよそ900程度は居るみたい。

油谷さんは拭き取れてないみたいやし、ヤバヤバになれば火を付けて振るいに掛けますか。

油谷さんはエコな植物性油です！これ大事なので言っときます。

地球の様に環境破壊はこの世界には持ち込まない！

持ち込ませない！（俺しか持ち込めないけどね。）

なんて無駄な事考えてたら、敵陣が動き出した。

先陣はゴブリンみたいやね。たぶん門破壊の為の捨石&敵戦力への分析兼ねてるのかな？

こちらはまだ弓隊の射程距離外なのでまだまだ敵を引きつけないと放てない。

その間にも障害の無いゴブリンは奇声を上げながら迫ってくる。

敵はゴブリンの5部隊。オークは3部隊。

俺ならゴブリンを広く展開して外壁に取り付き、その間にオークで門の破壊をするけどね。

戦力不足なら広く展開されると、そっちで手一杯になるし攻め所なんやけど、この魔人の戦い方は教科書に出てるような綺麗な攻め方で捻りが無い。

言うなれば、指揮に慣れて無い感じ。

そこはこちらの突き所やね。

とは言え、正攻法に来る5部隊の派状攻撃も厄介やけどね。

おっ、弓隊の攻撃が始まった。

次々弓に射られる魔物達。

数に任せて攻めて来るのを足止めする程の弓は放てない。弓隊の数少ないけど少しずつでも削れば良しとしよ。敵の遠距離攻撃無いから一方的に攻撃出来るし。

ウリ「そろそろ配置をお願い致します。」

俺「OK!」

俺は配置に着くと目の前に木の上に陣取りスコープ越しに敵指揮官を探す。

おっと、魔力探知に掛らない様に抑えながらステルスモード。同じミスは繰り返しません。

撃って撃って撃ちまくる。敵指揮官が不在の部隊は徐々に統制がとれなくなる。

元々ゴブリンアホやしね。

ウリクルは狙撃対象を外壁に取り付いた魔物に変えて排除し始める。

俺もここで一発でかい花火でも上げますか！

そつとRPG-7を取りだす。

これ撃つてみたかってん。

これを敵後衛に向かって撃つたら、この場所ばれるから即移動して次のポイントで狙撃を再開しますか。

パス　　と撃つたがバックドラフトが凄い！さすがスーサイドウェポン！

敵後衛に着弾した途端に激しい魔物の血肉が飛び散り、爆発と砂塵が舞いちよつとした煙幕もどきになってる。

これ5発くらい撃てば楽勝じゃね？なんて考えるが、後々を考え1発で我慢する。

次撃つ時はパンツァーファウスト3でも出そうっと。

これで20〜30は減らせたやろし、狙撃の効果も出てきたとこで徐々に撤退しますか。

今現在でい1時間程経過したが味方の被害は0。

敵はおおよそ200程度は減らされた。堀や外壁に阻まれて進行速度が遅くなってて的になってる。

でも、そろそろ外壁ヤバそう。

門も傾いてきてるし。

もう少し敵が内堀に入った時点で、外壁をファイヤーしますか。

その名も「敵の足止め&内堀の敵を殲滅作戦！」

外壁も有効に使わねば。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6234y/>

---

只今妄想実現中！

2012年1月5日17時53分発行